明治四十三年十二月一日第三種郵便物認可（毎月一回）
明治二十一年二月二十八日內務省許可（廿日發行）

明治四十五年六月二十日發行

婦人衛生雜誌

第二百七十一號

婦人衛生雜誌

第二百七十一號目次

私立大日本婦人衞生會

七月例會通知

來る七月六日(第一土曜日)午後一時半より神田區一ッ橋通り共立女子職業學校内に於て本會例會相開き左の講話有之候に付き御知友御誘引御來會被下度候也

眼の價　醫學博士　小川劍三郎君

明治四十五年六月

私立大日本婦人衞生會

前髪心の覇王 美人印ヘーヤロール

弊店製造の特許ヘーヤロールは原料を遠く濠洲に仰ぎ新歸朝者美容術界の明星たる岡崎エン子女史が母國への土産として持ち來りしものに大改良を加へ衛生と經濟とを兼備したる逸品なる事貴婦人界既に定評あり

ヘーヤロール前髪心壹個の目方

壹尺中	貮匁四分
壹尺貮寸大	三匁四分
壹尺五寸極大	五匁五分



婦人衛生雜誌第二百七十一號
（明治四十五年六月二十日發行）

講演

國民體育の改良
附婦人の責任

醫學博士　土肥慶藏

私は今日茲に出ましたけれども、至つて口下手ではあり、殊に素人分りのするやうなお話をすることは最も六ケ敷ものでありまして、見渡す所可愛らしいお若い方々ばかりで居らつしやる處で無味乾燥な醫學上の談などは御迷惑千萬と思ひますが、暫くお我慢を願ひます。

實は先達て岡田の奥さまからお前は先頃ちよつと西洋へ行つた、定めし彼方で何か多少見聞したこともあろう、夫を一度會で話たらどうじや濱尾男爵夫人よりもそう御言つげがあつたと云ふことで、つい御辭退を致しそこねましたが、却説何を種にお話いたしませうか。

英國婦人の參政權運動

先づ私が彼地へ參りまして第一に面白く覺えました事件は英吉利の婦人が參政權を得やうとしての運動でしたろうか、即ち男が政府を作つて政治を行ふならば、女も同じ人間である、當然議會へ出てお饒舌べりするなり又は内閣に參與はるなりしても差支はあるまい、何故女を今まで人間扱ひして呉れぬのであるか誠にけしからぬ壓制な次第であると、斯ふ申したやうな譯で、多年口の先ばかりで其方の運動をして居つたけれども、元來男の方がどつちかと申せば御婦人方より腕力がありますから、政治のことのみならず、總てのことに就て御婦人方が何時も不利益な位置に立たれて、先づ今の處では男子の壓制

の下に我慢して居られなければならぬと云ふ誠に御氣の毒な狀況にあるのです、併しながら將來御婦人の教育の程度が進むと共にさう云ふ風は次第に改まる譯と考へます、尤もこれまでの御婦人の教育が男子と差等あるのも畢竟は男の罪で、男が自分だけよい事をして女子には十分に教育を與へなかつた結果であります、併ながら明治の御代の我大日本の如きは普通教育の點に置きましては世界の文明國たるに恥ぢないまでに進みまして、御婦人にも男子以上の方々が出られまして、現に三輪田先生の如き方があり又皆さん方も斯う云ふ風に高等女學校に入て教育をお受けになるのであるから、結局は教育の程度に於ても男子も女子も違ひは無いやうになるのでせうそこで英吉利などでは今よりも一層女の勢を強くして何事も男子通りにしたいと云ふので婦人參政の運動まで起したのでありますが、生憎男子は容易にそう云ふ説に耳を假さない、是ではどうも不可ぬ、よし口だけで聽入れられぬならば腕力に訴へても意志を貫徹して見せる、何男なんてこわいもんかと云ふのが今回の運動の起りでありまして、遂に大勢の而も相應に教育ある婦人が往來で亂暴する、男を打擲する、或は總理大臣の官宅を襲撃する、大臣が役所へ出る後から其馬車を叩毀すと云ふやうな怖しい權幕、チョット考ますと男の行爲としても誠に亂暴狼藉な次第で、況して優にやさしい婦人としては尙更不釣合ひのことの樣に思はれます、併し又一方から同情して見ますれば、誠にお氣の毒千萬なことで隨分是まで幾百千年の間動もすれば男子の奴隷たる境遇に呻吟されつゝある御婦人方には無理もない事とも聞えます、勿論私が皆さん方にかゝる參政權運動の婦人のやうな行動をお勸めするのではないのですが、運動者の一人たる某貴婦人の言葉が面白いです、「是までの婦人と云ふ者は餘り身體が孱弱の爲に斯くまで男子の壓制に盲從して居らねばならなかつたのである、今は女の腕力は決して男に劣らぬと云ふことを見せねばならぬ、こうして鍛い上げたの

が我腕である、今度の運動で男子と喧嘩をしても一向ひるまなかつたのは全く多年體育に注意したお蔭である」とこう云ふやうなことを法廷で腕をさすつて滔々と述べ立てゝ居る、西洋の巴、板額、中々强い御婦人があります。

婦人には婦人の體質相應の義務がある

そこで先程も幹事の方からお話になつた通り、御婦人には御婦人の體質があり又其體質に伴ふ所の義務と云ふものがある、尤も男子にも男子の體格に相應した義務と云ふものがある、此相違の點即ち男と女とが各自に有する特色、之を相互に修養し發揮すると云ふことが人間の最も大切な義務では無いかと考へます、動物を見ると中には雌の方が雄の方よりも强いのが往々ある、尤も人間にも男子をお尻の下に布く强い御婦人方も入らつしやるやうですが、併し人間も動物ではありますけれど他の動物よりは多少進化したものであつて、形貌上男女の區別が一層明白である、そして性格の上に於ては一方は優しくて一方は勇ましい、是は天から授かつた人間男女の特色であつて見れば、何處までも此區別は立てゝ更に之を進化せしめなければならないと思ます、若し此天然の法則を破つて女は男を眞似、又男は女のすることをする、女房は出あるき亭主は御飯を焚く、是れ位なればまだ罪がないですけれども、英吉利などのやうな騒をするやうになつては、行末が誠に案ぜられてなりませぬ。

健康の身體には健康の子供が宿る

併しながら私は只一點參政權運動の婦人の行爲で皆さんにもまねて頂きたいものがある、夫は即ち其婦人たちの如き男に立優る位の體格の養成であります、「健康な身體には健康な精神が宿る」と承て居りますが、御婦人方にとりましては啻に夫のみでなくて、まだ一層大切なることがある、即ち「健康の身體には健康の子供が宿る」と私は申したいので、皆さん方は將來の我國民の體格を改良する第一の要素たらんことを希望いたすのであります。

人種間の競爭

今や日本國民は世界の列强と雄を爭ふ位置に立つやうになりましたが、私共の子供の時、私は慶應の生れで御維新前の古い人間でありますが、明治三四年頃のことゝなれば幾分か記憶に殘つて居ります、其時分迄は藩政時代の殘りで藩と藩と村と村とは河一つ隔ても今の外國のやうな交際で、即ち村と村、町と町とが互に競爭するだけで濟で居ました、其關係が丁度今の日本と外國との關係に均しかつたのであります、然るに僅か五十年たつかたゝない内に世界が一變して、非常に狹くなつて、帆前船が蒸汽船となり、汽車となり、飛脚が電信となり、輿が人力車となり馬車となり電車となり自動車となり、遂には飛行機が出來ると云ふまでになつて、昔江戸長崎の間を旅した日數をかければ夫で今は殆ど世界を一周できる、斯る勢で進んでは國と國との競爭は今や將に人種と人種の競爭に變ぜんとしつゝある、若し少でも迂濶にして居ると、不吉な言葉ではあるけれども國の存亡にも關することゝなるのである、此際に於て我々日本國民はどう云ふ覺悟を有つて居てよいか、是を一つ皆さんにお尋ねしたいと思ふのであります、私の考では何よりも國民の體格を改良することが第一の急務では無からうか、そして夫には御婦人方の責任が最も重いかと信ずるのであります。

戸外運動

西洋でも英吉利人や亞米利加人は昔からして尤も戸外運動に熱心で、野球だの短艇競爭だのゝ本場は皆アングロサクソン人の國に在る、日本でも大學などが率先して之を奬勵した結果、今では何處へ行ても中々盛に運動を勵むで居る、女學校などでも皆さんが御熱心で、昨年獨逸のドレスデンに萬國衞生博覽會のあつた節、日本女子大學の體操の寫眞が出品されましたが、來觀者が皆我國の女子教育の進歩に驚て居ました、所が獨逸人と云ふ者は從來は戸外運動には餘り重きを置て居らなかつたやうで、今より十四五年前私が始めて獨逸へ留學して居りました時

分には、獨逸人の運動と云へば「ケーゲル」、「バーン」と申す不細工な球ころがし、上等が玉突、左なくば踊り位で「ベースボール」や「フートボール」又は「ボートレース」見た樣な戶外運動は滅多に見ませんでした、然るに今度往て見ますと、プレスラウと云ふ田舍の町のことでしたが、若い婦人、丁度貴女方位の年ばいの女子が學校歸りに「テニス」場へ行くのを見受ける、町の中央にオーデルと云ふ隅田川見たやうな川がある、夫には絕えず「ボート」が浮んで居るこんなことは別に珍しくもない譯ですが、私は十餘年前に思ひ較べて英米人の風習が追々獨逸に侵入するのに驚きました。

世中の風潮は不思議のもの

誠に世の中の風潮と云ふものは不思議なもので、決て一國が他國と沒交涉な譯には行かぬ、恰も水の低きに就く如く又は比重の輕重に因て瓦斯が交流する如く、國民間の風俗習慣も互に感化をうけて變遷して行く、且つ文明國が必ずしも未開國にのみ感化を及ぼすと限つたものではなく、文明國人でありながら却て野蠻人の眞似をして悅んで居るやうな事も少からぬ、例へば西洋の婦人は帽子に奇麗な羽毛を附て居る、大禮服の帽子にも羽がある、是は丁度亞弗利加あたりの黑人などがやつて居る型で、只少し恰好が良くできて居るのと否らざるとの違ひのみである、卽ち國民は國民同志、個人は個人同志で互に他の長を取りて我短を補ひつゝある、或は實際に於ては我長を捨てゝ人の短を取るやうな場合も亦少からぬことゝ思ふ。

佛蘭西婦人の服裝

少し餘談に涉りましたが再び旅の話に立戾ります、佛蘭西へ參りまして先づ目に止つたのは婦人の服飾です、舊は婦人の袴は廣くつて恰も大風呂敷を廣げたやうな物を穿いて居つたのですが、近年は袴が急に狹くなつて、日本婦人の裾よりももつと狹いのが流行り出しました、更に進では袴の眞中がまち高の樣に切れたのを穿た婦人をも見受けました、是は或

は支那婦人の服裝の眞似ではありますまいか。

室内の裝飾

家屋の如きも最近の意匠は餘程東洋化して來て、殊に室内の裝飾に至つては斯くまでに日本に眞似て來たかと驚くばかりです、即ち昨年白耳義の都ブラッセル市に萬國博覧會がありました時、其處に獨逸の建物の陳列館が建てあつて、其外觀は全く英吉利の田舍建築を眞似たものであると或る獨逸の專門家が私に話でしたが、其内部の裝飾に至りては頗る日本式で、私共の眼で觀ると全然日本家屋其儘で、壁は襖模樣で六七尺の高さ、其上には欄間がある、それから隣部屋との間仕切りには暖簾が下つてあると云ふ意氣な作り方、尚細く申しますと色々ありますが、要するに近年東洋文明の西洋に及ぼせる影響は決して少からぬとの感が起りました、勿論夫れ以上に我々は西洋の文明を採りつゝあるが、是は吾々が今は世界强國の間に立ち交りて劇しい生存競爭をしなければならぬからで、我々は常に世界の大勢に眼を著けて一刻も油斷をして後れを取つてはならぬのである。

日本人の體格

夫に就ても我々が最も注意しなくてならぬのは國民の體格の改良である、世界の人種を比較して見ると我々日本人と云ふものは餘り立派な體格ぢやない、めい／＼の事を悪く言つては濟みませぬが、脊丈の點に於ても西洋人は勿論、印度人や支那人にも及ばない、筋肉の發達の弱ひこと、血色の悪ひこと、殊に御婦人方の概してお小さいこと、誠に御雛さま見たやうで入つしやいます、併し日本人は外見の弱く見ゆる割には中々丈夫な點も確にあるので、例へば西洋人が日本の車夫のやうに車を挽いて五里も十里もかけると云ふことは容易には出來そうにも思はれぬ、戰爭でも日本兵は誠によく困難に堪えて遂には大兵の露西亞人にも打勝つた位である、併し我々はそれで滿足して居ては大間違である、益々體育に注意をして彼の西洋人の如くに何程年を取つても少も

氣力の衰えぬと云ふ風にならなければならぬのであるし、實際そう云ふ傾向はたしかにある、私の子供の時分には先づ五十か六十位の年齢になると孰れも腰が屈んで弓形になり、杖にすがつて歩いて居る人が多かつた、今では七十以上のお爺さんお婆さんでも多くは眞直になつて道を歩くやうになつて來ましだ是は正しく國民の體格が改良されつゝある證據であると思はれる、又近頃の青年學生は男女共に私共の學生時代よりは確に脊が延びて來た、其自慢話を伯林で或る敎育家に招かれた晩餐の席上で私が致しますとイヤ獨逸などでも此十年間に學生の體格が餘程改良されたと申されました。

都人士と田舍者

一體世の文明に進むと共に人間が柔弱になる恐れがある、丁度都人士と田舍者との關係を見れば分る、例へば兵隊にしても東京や大阪から取つた徴兵は虚弱なのが多く、矢張り百姓上りの兵士の方が強壯である、詰り國が開けて人口が稠密になると、都市の空氣が不潔になるから、自然田舍に住つて新鮮な空氣を呼吸した者に比ぶると體質が劣つて來るのである、日本の都會の家屋などは幸に未だそれ程ではありませぬが、西洋の大きな建物になると終日室内に在りて太陽の光を見ない者が多い、從つて日陰育ちの植物は唯美しいと云ふだけで勢がない様に、自然人體も弱くなる、夫等に因つても文明に進むに從つて自然人間が退化すべき理由はある、そこで昔の羅馬の如きは其最盛の時には殆んど歐羅巴全體を占領した位強かつたけれども、間もなく國民が惰弱になりて、終にゴーテンと云ふ野蠻人に亡ぼされました、勿論斯る例は古今東西ともに枚擧げられない程あることは皆さんも御承知の通りである。

文明の弊害と衞生

夫れ故今の文明國では古來の弊害に鑑みて盛に國民の衞生狀態を改良し、斷えず國家の元氣を振興する策を執つて居る、即ち一面には生存競爭が劇しくなつて精神を非常に使つて疲勞するが、又一面には醫

學の進歩に基く衛生法によりて身體の強壯を謀ると云ふ風に兩者の間に權衡を失はぬ様に勉めて居る、例へば「ペスト」や「コレラ」が中古時代の歐羅巴を荒したことは中々猛烈なものであつて詩や歌にも謳れて居る、是もドレスデンの衛生博覧會で佛蘭西館に今より二百年前に「ペスト」が馬耳塞で流行した時市中に死人の山をなした狀態の畫が出いました、其慘狀は恰も滿洲に於ける一昨年の流行を想像せしめましたが、今や歐羅巴人はそんな病は野蠻國にしか流行しないものだと、おつうすまして御座る、日本でも私の子供の時分には天然痘がまだ相應に流行たもので、男にも女にも痘痕の人が澤山あつてあたら美人も一朝に醜婦となる位はまだしものこと、多くの人命を損して國民の蕃殖上に非常なる妨害をなしたものである、先づ小兒が生れて麻疹をやる、夫が濟むと馬痹風と云ふ今の「ヂフテリヤ」で大分取られる左なくば疱瘡の神にとつつかれる、好し命をとり留めても痘痕は到底免れぬと云ふ誠に不安心な世の中であつた、然るに天然痘には種痘と云ふ豫防法が出來、實布垤利亞には血清注射が行はれるなど昔は非常に怖かつた疫病も今日では左程怖くなくなつて仕舞つた、「ペスト」には鼠驅りをする、「コレラ」や窒扶斯や赤痢などを豫防するには上水下水を設けて清淨な成るだけ無菌に近き水を飲み不潔なものは地面にしみ込まぬ様に遠方に流してそこで消毒する、さう云ふ方法が講ぜらるれば忽ち急性傳染病は流行なくなるのである、然るに我輦轂の下たる東京などには「チフス」や赤痢などまだ澤山あると云ふ是は誠に文明國の體面上恥かしい次第である、斯んな事に僅かな金を惜み却て人命を輕ずる、是等が所謂一文惜みの百知らずでせう、併し我國の衛生狀態も幾分づゝは年々進歩して參るやうで、現に東京市の下水改良も既に著手したと云ふ、誠に結構なことである。

困るのは結核

併し文明國でも困つて居るのは結核です、是は國民病中最も蔓延の甚しいもので、殊に經過が慢性で

急性傳染病のやうに一か八かと云ふ風でなく、長く病人を苦しませて、其間に病毒即ち結核菌は周圍にまき散らされる、誠に結核ほど陰險で豫防しにくい傳染病は無い、若し世の中に此結核が無かつたら人間が何れだけ長生出來るか知れぬ、百年位生きることは普通となるであらうと思はれる。

結核の豫防法

夫れで現今行はれる結核の豫防法と云ふのは、第一に病菌の散亂するのを防ぐ爲め、先づ咯痰を一所に集めて消毒する、之が爲には個人の住宅や多數集會の場所や宿屋や汽車などで痰壺を置く、是等は固より姑息の法ではあるが、夫でも幾分の豫防にはなる、私は渡歐の途中上海其他で支那人の家を見ましたが寄席や料理屋は勿論富豪の私宅でも牀には痰のはきつ放しである、誠に危險千萬と申すべく、日本などはまだ／＼遙に勝であると考へた、併し伯林ではシベリヤから來る汽車を其儘直ちに消毒庫に入れて瓦斯消毒を行る、靴や著物や荷物に附て車中に殘つた塵埃即ち細菌は實は是位にしなければ悉く消毒される譯には行かぬのであります。

旅行中の危險

世には旅行して家に歸るとすぐ病牀に伏す者が往々ある、是等は汽車や旅屋などで病菌に感染する場合が多かろう、殊に旅館などの夜具の如きは最も危險で、若し前晩肺病の人が之を著て蒲團の頸に口を當て寢たとすれば、尋でそれを著た人は忽ち結核菌を吸ひ込む譯である　そうして其病は直ぐには發しないで、一年立ち二年立つうち頓てゴホン／＼と咳が出て來る、肺尖加答兒と診斷がつく、養生が足らないと終には本當の肺病になる、又便所の戻りに手水を使ふ、其手洗鉢の中には大抵ぼうふらが涌いて居る、そこにかゝつて居る手拭は牛蒡みた様に汚れて居る、其水で洗ふて其手拭で拭ふ、否拭ふのではなく却ていろ／＼な黴菌を我手にすりつける、其手で直ぐにお三時の御菓子をつまむ、黴菌は御菓子と共に口中に入る、斯うして「チフス」や赤痢其他色

色の病は體中に侵入するのである。

黴菌を撒布して平氣なる市民

又往來に塵が起つ、夫れを押へるとて水を撒く、上水を撒くならよいが、泥溝水をまく、恰も往來を汚くして空氣中の黴菌を殖す工風をするのである、是が皇城の周圍に住む東京市民の所業である、其黴菌は畏れ多くも皇城の方にも吹飛はぬとも申されまいと思へば實に恐懼の至りであります。

こう云ふことは政府が少し骨を折れば豫防に甚だ困難で無い筈で、獨逸のバワリヤ國にては最近十年間に結核が一割減じたと云ふ、心がけさい宜しければ蔓延の甚しき結核すら斯の如く段々減少し得るのである。

豫防法の效果

其れ等の結果か獨逸の如き今から二百年前の死亡率は人口千に付四十何人の割合であつたのが、千九百年の死亡と云ふものはそれが半分に減つて二十人の割合になつて來た、生後一年以内の子供と云ふ者は誠に死に易い、其死に易い數を除つて仕舞つた一歳以上の人間に就て更に死亡率を取つて見ると、千八百七十年今から四十年前には凡そ千人に二十一人位夫が此頃では十三人位の比例に減じて來た。

斯くの如く他の文明國の衛生狀態は益々改良されつゝあるが、翻て我國の狀勢如何にと見れば、是も進歩の極めて顯著なるは勿論である、併しながら此上尙ほ改善を要すべき點も亦少からぬことゝ思ふ、そこで前には主として公衆的衛生に就て注意を促しましたが是からは個人的衛生に就ての希望を述べたいと思います。

消極的衛生と積極的衛生

個人の衛生にも積極的と消極的の別がある、消極的衛生法では寒い目に遭ふな、不消化物はたべるな、餘り勉强はすまじと云ふ、是は病人の衛生で、達者な人間は少し位薄著しても風を引かぬ御飯も澤山食べる、人一倍働きても草臥れぬと云ふ風でなければならぬ、そこで體育を盛にして身體を鍛鍊する男

女青年學生の教育は森文部大臣以後一新して今は誠に盛んなことで此上私共が餘計な希望を囑することは多く無い、其の結果若い方々は近來大變に脊が高くなられて貴女方にも體格の大きい肥つたお方が多くなられたのは事實で、往來でお母さんと一しよに歩いて居られるのを見ましても、お母さんよりは姿勢と云ひ體質と云ひ孰れも立派な方が殖えて參りました、昔の士の女には長刀の御稽古位は致したものもあつた樣ですが多數は深窓に人となりて立ち居も人手にかゝると云ふ尫弱のを好いとして居ました、然るに今では御妃さまだちまで小學校時代から體操をなさる、運動を勵まるゝ其功果が忽ち是の如くに現はれて來たのであります。

衣食住の改良

併し夫れ位の事は獨逸でも前申した通り遣つて居る眞に日本人の體格を根本的に直すにはまだ〱遠いそこで最後に私の申上たい問題に到着しました、外ではありません、私は皆さん方に衣食住の改良を御相談したいのであります、是は決して明日から是非行つて下さいと言ふのではありませぬけれども、貴女方が一人前になられまして家庭を作られる時分には、世の中に率先して行つて戴きたいと言ふのです。

坐ることを止めるのが第一

衣食住の改良と申せば誠に範圍が廣いやうですが、私の考では第一は座ると云ふことを止めれば、外の事は自然に解決するものと思ひます、總て何事にしても一人でも率先してさう云ふ陋習を破りますと、夫が二人に傳はり三人になり遂には一般に及ぶものですから暫くの間の御辛抱が大切です、此座るのを廢したいと云ふと誠にハイカラーのやうに聞へますけれども、是は私が多年考へて居ますことで、座わるのを全廢するとすれば、衣服の如きも自然と改良できる、今の著流しで腰かけて居ては腰が冷る、裾がまくれる、そこで袴をはく習慣がつく、腰を掛ける樣になれば夫れ相應に衞生的な住居の改良も出來人間も活潑にまめに立働くやうになるから自然國も

益々富み繁へる結果となると思ひます。

却說衛生上座はるのはどれ程害があるかと云ふ事を次に極簡單に醫者の方面からお話して、そして此演壇を下りたいと思ひます。

座ることは壽命を縮める

極端に申せば人間が座はると云ふことは卽ち命を縮めると云ふ事で、どう云ふ譯でそうかと申しますと、御承知の通り人間の體には心臟と云ふものがあつて二六時中恰も蒸氣機關の如く働いて居る、人間が眠つて居つても心臟は少しも息まずに血行をして每二十七秒時間に心臟から出て又心臟に戾つて來る樣にして居る、年をとつて最後の呼吸のつゞく限りは心臟の此働も休まぬのである、そこで若し血行中に故障が起ると夫が直ちに心臟に影響する、之を例へて申せば玆に川があつて絕えず水が流れて居る、今若し其流れに堰をしたら水は必ず堤を崩して左右に氾濫するが下流には却て水量が減て田畑が荒れる、して見れば血行でも若し僅な處に流通の惡い所ができたら、夫は結局必ず全身に障つて來なければならぬ、而して貴女方は平生から御行儀がお宜しいから長くお座わりになつても何んともいらつしやらないでせうが、私共は物の十分も座わつて居ますと直ぐ足が痲痹ましてもぐ〱致し、そつと座り換えなければなりません、其痲痹の切れると云のは何でせう、卽ち足を曲げて上から重いお尻でどしんと抑え附ますから下肢の血管に血の通ひが惡くなる、殊に靜脈は皮膚の表面に近い所にありますから、壓へ附けられると直ぐ血液の心臟に還流するのが妨げられる、從つて極端に申せば心臟の機關車が空廻轉をしねばならぬ理屈である、それも日に一度二度位はと慨跂居ると一年立ち二年立ち十年立ち二十年三十年五十年百年と云人間の壽命のある間に幾度となく、繰返へさる爲め、不充分な血液で運轉して居る心臟の機關は早く傷むのは明白な理屈で毫も疑を插む餘地がないと思はれる。

それで幸に今は學校では椅子で腰を掛けるやうには

なつて居りますが明治の今日にあつても家庭に於ては皆さんもお座はり成さる時間が多いことゝ信じます、私は衛生上から皆さんが御内でちつと足位抛出して居らした方がよかろうと思ひます、少し位御行儀が惡くつても、夫は今日までの習慣を標準にして申すことで、構わんではありませぬか、僅かな事の樣でも「塵も積れば山となつて」心臟の働が弱くなる、血液の循環が不充分になる、貧血になる、榮養が惡くなる、脊丈の延べきが充分のびぬ、肥へ太るべき腕が瘦せて細い、張り出すべき胸がへこみ、頭は重くて前に下がる、病が弱身につけ込む、夫で百年の天壽をの半をも完ふせずして早く夭ると云ふ、まことにつまらぬ結果になるのも元は座る習慣から來得ると私は確信するのであります。

其證據には心臟の大さは恰度拳の如き者であると云ふ、卽ち身體が虛弱なれば拳も小さいから心臟も小さく、身體が强壯になれば堅固の堅いやうに心臟も大きくなる。夫を見ても分りませう。素々當人一人の損ばかりで無い、虛弱な親の生んだ子孫は矢張虛弱ですから、子々孫々相傳えて段々體格が小さくなり體質が虛弱になる、結局國民が生存競爭に打まけて衰亡に就くの外は無いことになるのです。

右樣の譯でありまして、今の若い御婦人方は將來家庭の主宰者でいらつしやるから、新に樂しい家庭を御作り成さる場合に皆さんが率先して座る習慣を御止めになりお子さん方をも成るたけお行儀惡くお育てになつて、腰をかける習慣が漸次に一般に行はれるやうに御盡力を願ひたいのであります。

英雄の母は皆强壯なり

實にあなた方は我大日本國民の母たる責任があるので母が强壯で無い以上は何程體育を奬勵しても其效果は知れたものである、假令父親が少し位弱くつても丈夫な母の子に弱い者はありませぬ、昔から英雄の母は皆强壯です、何卒日本の國にもえらい者が澤山生れて益々國家を富强にして此明治の聖代に生れた御恩の萬分一を上　天皇陛下に酬い奉る樣にと皆

さん方が智育德育の琢磨と共に體育の改良に最も御注意あらんことを切に祈ります。

叢談

美的體育の自然的基礎

ドクトル　エフ、アー、シュミット原著

銀海漁史抄譯

これは、數年前、獨逸國ハンブルグの第三回技藝教育會議に於ける講演の抄錄を本として、一冊子にしたものであるが、婦人衛生雜誌記者の依囑によりて、再び解きほごし、てその大略を日本語で摘み出したものである。(譯者)

一、直立步行による人類體形の發達

頃しも西暦紀元一千八百九十五年、阿蘭陀の軍醫デュボアーは、ジャバ島で發見したる大した掘出しものについて報告をして、學術界を騒がした。と云ふのは、ジャバ島に於て、古い地層を掘り返した際に、今は死絶えてしまつた動物の殘骸の間に、歷史以前の一種の生物の頭蓋と、二三本の臼齒と、大腿骨とを掘り當てたのである。所が、斯様な動物は、吾々のこれ迄知つて居る動物中の何れに相當するか一寸見當がつかぬ、一種異體のものである。それは頭蓋の形から云ふても、法外に大きい所から見ても、一種特別のもので、どうも猿の頭としては、大分大き過ぎるし、然ればと云ふて、人間の頭にしては、ちと小さ過ぎると云ふ代物である。加之に、更に奇妙なことは、その大腿骨を調べて見ると、どうしても、これは既に平常直立の姿勢で、立つて歩くに適した生物の骨でなければならぬことである。そこで人類學者は、この地球歷史の古い時代の謎的代物にピテカントロープス、エレクツースと云ふ名を負ふせた。

さて此の野生の山男の如きものを以て、智慧ある人

間の御先祖と崇めまつるべきものか、それとも既に滅亡してしまつた、人類の從兄弟とか、分家とか云ふ筋の種族と見做すべきものかと云ふことに就ては暫く措いて論せず、兎に角、この例で以て、二ツか三ツの骨の有樣に依て、その肢脚の骨の形や曲方、又肉や筋が附著する所の小さな隆起や粗糙、その他の點からして、此の下足は、何う云ふ風に使はれたものであるかと云ふことを判斷し得ることが分かる。それで私はこの講話の冒頭に、この話を持出した譯である。實に器官を形造る所のものは、これ作用である。

直立步行、これが抑も初めて人間を哺乳動物の中より高めたる所のものであり、又人體の高貴なる姿を成すに與つて力ある要約となつたものである。猿の扁平い後手或は握足の代りに、穹窿ある人間の足が出來た。堅固に組合はされ、而かも彈力があつて、身體を自由の姿に立たしめ、迅速、確實に步行するには、他に比ぶべきものもない巧妙の道具が出來た。

脚は、高くスラリと延びた。球の形をして居るその骨頭の所は、股關節に於て軀幹の重味を支へ、腰と股の周圍の筋肉は、いみじく發育して、常に平衡を保つて居ると云ふ次第である。

さて此の筋肉の中でも、臀筋は、逞ましくムックリと膨隆して、身體の外形上には、特に趣を持たせて居る。實にこの臀筋の發達は、人體美の根本的屬性である。他の動物では、狹く且つ前に傾いて居る所の骨盤も、直立姿勢の結果として、廣くなり、恰も鉢の如く凹にして、內に、內臟の重味を支ふるに適せる形となつた。脊柱は、もはや四足獸の如くに地平の方向ならず、鉛直に立てられ、その頂には頭を載せて、その他の運動を碍もせず、巧みにウチリを持たせてある。就中腰部の短き骨組は、人間の脊の下部の方の浮刻の有樣には頗る重きをなして居るものである。

上肢は、猿では、既に主として攀上る道具になつて居るが、平地を步く時には、矢張まだ體を支へて步

くのである、然るに、人間の上肢は、全く地を離れて自由のものとなつた。肩胛と上膊との間の關節は四足獸では、支柱たる前肢の上の支持の働をなすに適するやうに、前下方に向けられて居るが、人間では、軀幹の外の方に向つて附て居る、それで只例外の場合として、暫時身體を支へるに用ひらるゝ所の臂は、總ての方面に向つて極めて自由の運動が出來るやうになつて居る。

手も、猿に於ては、木に攀る爲の手で、幅が狹くて長い、又拇指の發達も不十分で、拇指球卽ち拇指の根の處の膨らみも殆どないやうなものであるが、人間では諸方面に應用の出來る仕事道具となつて、その形も幅廣く、力强い拇指を具へ、拳を固めることも出來れば、ディオゲネスの杯（水を掬ぶ時の如く手掌を凹める）を拵へることも出來る。斯樣な譯でその運動の自由なること、よく器械的の應用の出來る所より、人間の手と云ふものは、自然に出來た所の道具中の道具とも稱すべきものであるが、單にそれのみならず、これと同時に、その觸感神經の爲めに、極めて巧妙なる感覺器として、特に吾々の眼の働を補佐し、場合に依ては、全く眼の代用をさへするものとなつて居る。

軀幹の構成に就ては、臂が兩側に著いて居ることゝ、後の方へ反ることとの出來る所より、幅廣く膨れた胸の發育となつて、これに應じて脊中は扁平となつた。卽ち動物に於ては、脊柱の棘狀突起が並んで、突出た櫛の如き形をなして居るが、人間では、肩が引込んで、脊柱の背中の部分の棘狀突起の列は、深い溝となつて居るのである。

斯く人類の形態の特性及び人體美の解剖的特徵として擧ぐべきものが澤山あるが、これは生物學の方から見ると、全く眞直な姿勢で立ち上つた結果と見做すべきものである。

今や人、起ちて、王者の顏を、星に向へつ。いと高き
遙の御空を、いひばえの眼路、はやも、日の光仰ぎ
て。（Schiller: „Die Künstler."）

（以下次號）

醫術と迷信

石橋臥波

一、緒言

一日淺草公園の觀音堂の前に立つて仲見世の通りの人の往來の宛ら風に吹き寄せられる波のうねりのやうな――そしてそれが觀音樣の前に拜跪して、或ひは志願が成就するやうに、安産をするやうに、不治の大患が癒えるやうにと心願をこめて居るのを見ては、人間は、智慧ばかりでは諦めがつかないで、神や佛の力を要求せねば滿足し安心することが出來ないものであるといふことが思ひ出されるであらう。この民間信仰がやがて迷信の根本になつてこゝに醫術と密接なる關係を有するやうになるのである。現今の醫學では、あらゆる疾病は、それ〳〵の病原をなす黴菌の作用とするのであるが、古代人智の開けざりし時代にあつては、人間の疾病は惡鬼や、神の祟によつて起るものとしたのである。從つてその疾病を治するには神の力によつてそれらの禍を除かねばならぬと信じて、これによつて、種々の祈禱や方術といふやうなものが行はれるやうになり、それが今日までも存續して居るのである。

かやうな宗教上の信仰に加へて、家相方位、陰陽五行の説などが更に疾病に關係を及ばすやうになつていよ〳〵迷信の種類と範圍が廣くなつて來たやうである。これから少しく民間の治療に就て説明を試みよう。

二、一般に關するもの

疾病の發した時日によつて、その疾病の輕い重い又治癒する時期の長い短いが定まるといふ迷信がある、たとへば、拾芥抄に、長病日として、上旬では六日、中旬では十八日、下旬では二十四日、二十九日があげてあつて、この日に病み初めると長びくといふのである。

病を治療する日にも吉凶がある、拾芥抄に、病を療する吉日として、藥を服し、針や灸をしたり、病後

沐浴に吉き日は、甲の子、辰、午、戌の日、乙の巳亥の日、丙の子、午、辰、戌の日、丁の丑、巳の日などであるとか、同じく凶の日は、甲の子、乙の卯などであると記してある如きものであるが、これらは、もと陰陽五行の相生相尅の理から割り出したものので、今日から見ると、實に滑稽といふより外はないのである、中にも、甲の子の日は、黄帝が崩御の日、辛の未の日ば印度の耆婆、癸の未の日は扁鵲といふ名醫が死んだ日であるから之を忌むといふに至つては實に、古の人が、醫術上に、支那の黄帝や印度の耆婆、扁鵲をかくまで貴んだことを知ると共に、それが迷信の種にまでなつたといふことがうかゞはれるであらう。家相方位も醫術と深い關係を有して居る、もし、その法則に違ふた家の構造及び、忌むべき方位、且つ、惡神の廻り合つて居る年月に、ある方位を犯すと、病人が出來るとか、その家の主人の生命が危いとか、一家の者悉く病にかゝり又は死するといふ迷信がある。たとへば大將軍のめぐり合つて居る方位には土を動かし、建築をせぬ、若しこの方を犯せば、主人の生命が危いと言ふが如きものである。

醫師に病人を診察してもらうにも、方位をよく考へないと、凶の方位の醫師を頼むと、如何なる名醫の投藥でもその效力がないといふ迷信がある、これも、その病人の年齡と方位との陰陽五行の相生相尅の理などから判斷するもので、これも學術上何等の根據もない妄説である。

（つゞく）

酒と外科

外科の領分に屬する病氣の中には、何か外の方から加はつた力、即ち打つけたとか、打たれたとか、轉倒したとか云ふ、所謂怪我が大變多う御座います。所でこの怪我と云ふものは、酒と大分關係がある。これは西洋あたりの災害統計について見ますと、よく分るのでありあます。月曜日と給料日の翌日は、怪

我が著しく多い。と云ふのは、日曜日には、今日は休日と云ふので盛に酒を飲むから、月曜日になつても、酔が醒め切れぬ、少なくとも手足が不確實である、或は精神が鈍くなつて居るから、どうしても過失が多い譯であります、給料日の次の日に怪我の多いと云ふのも、矢張給料がもらへたからと云ふので、直ぐ飲む、深更まで飲む、或は徹夜で飲む、從て翌日の仕事は、半夢中でやることになりますから過が多い。これは單に勞働中の怪我であるが、此の外、酒に由て精神が狂ひますから、特に下等社會の人間は、一層下等の性質を表はして、喧嘩をし易い、從て又怪我をし易いと云ふ譯であります。

實際獨逸國の調査で見ましても、千八百九十七年に農工業組合に於て、月曜日は、他の日よりも餘程多數の怪我人を出して居りまして、疲勞した土曜日の午後よりも、月曜日の朝の方が多いのであります。又上部シレジヤの鑛山で十三萬四千七百五十三人の勞働者について、九・七プロセントの怪我であるが、麥酒製造の從業者では、十萬九百三人の勞働者について一一・八六プロセントの怪我がある。他の計算では、五千三百六十四人の被保險者の中で、二千二百八件の災害があつた、それで他の職業に比べると五倍も多く、特に危險の多い鑛山業に較べても著しく多數であります。

ドクトル、モストと云ふ人の説によると、飲酒家は怪我に對して、一般に抵抗力が弱いものであるが、頭部の損傷に對しては殊に弱いと申して居ります。實際大酒家は、怪我などをすると、所謂酒客譫妄と云ふやうな病狀を呈することが屢々ありまして、強壯な、若い男が、死者狂になつて、その爲に斃れてしまふと云ふやうなことが往々あるのであります

尚ほ飲酒家は、創傷傳染病に侵され易い、例へば狂犬病などにも罹り易いと云ふことであります。これも前のモストと云ふ人の話でありますが、ある若い男が狂犬に咬まれ、直に豫防注射を受けたが、遂に死亡した、然るに同じ狂犬に咬まれた一人の十

三歳になる子供は、狂犬病を免れた。段々後から聞いて見ると、この患者は大の飲酒家で、毎朝空腹に數杯のシュナップ酒をあほる人間で、療治を受けて居る間も、これを續けて居つたと云ふことでありました。

それから外科の手術に就ては、何うかと申しますと、矢張飲酒家は、下戸よりも惡い。何故かと申しますと、先づ第一に心臟だとか、肺臟だとか、腎臟だとか云ふ生命上最も大切な器官が侵されて居るので、全身麻醉を施す際にも、又手術後の病牀に於ても、大變都合が惡いのであります。それで飲酒癖と云ふものは、手術に對しては、誠に惡い準備なのであります。卽ち飲酒家は、なか／＼麻醉しにくい、麻醉をかけても非常に手間がかゝる。而して麻醉の際に激しく興奮して、手術臺の上で、怒鳴つたり、騒いだり、暴れたりして、うつかりすると臺の上から顚げ落ちると云ふ有様で、誠に始末にいけない、而していよ／＼麻醉して靜穩しくなると、今度は心臟麻痺の危險が多い。一體飲酒家を十分麻醉させるのには、酒を飲まぬ人よりも餘程多くのクロロフォルムを費さなければならぬのであります。

但し外科の方では、近來炎症に對して、卽ち身體の一部が、赤く腫れて、熱を持つて痛があると云ふやうな場合に、所謂罨法として外から冷やす爲に用ひられます。それから外科醫の手の消毒には、是非必要なものになつて居ります、斯樣に外部の應用に就いては、アルコールの有益なものであると云ふことは何れの外科醫の意見も一致して居ります。つまり飲んでは有害であるが、外から用ひて有益である。害ばかりではない、確かに益もある。用法を誤らぬやうにするのが肝要であります。

化學者は木材より何を作るか（承前）

醫學士 藥學士　高橋學而

第三　炭がま

何んな種類の材木からでも、之に化學者の手を加へて、若くは化學的の分解を行はしめて、作り得る者はまづ木炭である。木炭は世界各國共、甚だ多量に之を作つて、又甚だ多量に燃料として用ひますに適當の方法と設備とをさへ設ければ、木炭製造の傍らに副産物として猶メチルアルコホルと醋酸とが得られます。之等の外に大仕掛の化學工業で、現今木材から作つて居る者は、紙類、セルロイド、綿火藥などですが順序としてまづ木炭から申述べる事に致しますと、

木炭は御承知の通り山家の人々が所謂炭がまをこしらへて其中で木材を蒸焼きして作るものです。

日かずふる雪げにまさる炭がまの
烟もさびし大原の里　　式子親王

餘り太くない材木を大抵三四尺位の長さに切つて、之を順よく積み重ねて、さしわたし凡そ二間位、高さ五六尺内外までにして、其上に稍あつく二三寸位芝土を被せたのが卽ち此にいふすみがまです。全體の形は一寸昔の御稜か、或は大きい土饅頭に似てをります。こう組立てゝから豫め備へて置いた下の竈口へ火をつけますと、中の材木は次第に燻つて、數日の後には全體が炭になつて仕舞ふのです。火口はあさでは土を塗つて塞ぎますが、此口の大きさと、之をふさぐ時期と、又材木のつみ方や上の芝土のあつさやなどが仲々手ぎは物で、若し竈の中の空氣の流通が餘り惡ければ炭化が不完全で、いぶる炭が出來ますし、又空氣の流通が良すぎれば消炭の様な者になつてしまひます。

炭化の際に出來る水蒸氣や、烟や、様々の瓦斯體や、又はタールの様な者などは、一半は土の中へ滲み込み、一半は、芝土の隙間をもれて外へ逃げて參る。古歌に炭やく烟とあるのは、このあさの者が空へ立上つた者の事です。

炭にもいしむろ、堅炭、佐倉炭(池田炭)、白炭(枝炭)中白、土竈炭(らくだ炭)、松炭、朴炭などの種々

雜多の者がありまして、其原植物も、用途もちがひ、又同じ火の目方でも火力も直段も少々づゝは差別がある。例へば佐倉炭は栗、櫟の類から作り、白炭は躑躅の枝から作り、堅ずみは主に勝手の方で使ひ、松ずみは陶磁器を燒くのに珍重し、枝炭は茶の湯の風呂に用ひると申す樣な具合です。

製產地は殆ど全國到る所と申して宜しいが、中でも東京で用ゐる者は主に伊豆、上野、下野などから來るのだそうです。

乾餾

木炭を燒く時に或は土に滲み、或は空氣體に逃げる瓦斯體、蒸氣若くは液體などを、特別な仕掛けで少しも逃がさん樣にして、再び冷して集めますと、色々な有益な物質が取れます。一般に斯樣な方法を乾燥蒸餾法、或は略して單に乾餾法と云ひ、化學者は萬般の物を乾餾して、人世に必要な種々の物質を作ります。中でも甚だ大仕掛に行はれて、文明社會の福祉の一因となつて居る者は、即 木材或は石炭の乾餾です。

石炭の乾餾は特更に重要で、燈用瓦斯や、アンモニアの外、內用外用の醫藥の大部分、着類を染める色素のほとんど全部工業用の藥品の若干は此際に出來或は此時出來る物を原料として製りますが、之等の事は何れ石炭の御話の序でに又申上げる機會があるでしやう。

木材を乾餾する――細しく申せば、木材を密閉した鐵釜へ入れて空氣に觸れぬ樣にして於いて強く熱して、出で來る蒸氣を細い誘導管で導いて冷却裝置の中で冷却させる――と次の樣な種々の物質が取れます。勿論みな木材の分解に依つて、自ら出來た物質です。

まづ釜の中には炭が殘る。次に誘導管の中で釜に近い所には多量の煤が附著する。次に冷却裝置の內部には、下の方に暗褐色乃至黑色の、どろ〳〵した、比較的重い木タールが集まつて、其上に暗色の比較的輕い水溶液、即ち所謂木醋の層がたまる。最後に

冷却器の中でも液にならずに、何其先まで出て行く者は色々の瓦斯體の混合です。

木炭は無論其まゝ燃料に使ひます。又煤煙は電氣工業に使へば使へる者ですが、之は石炭乾餾の時の方が遙かに澤山されますから、委細は石炭の方で申述べましやう。

木タールと木醋とは、互に混り合はない液體ですから、容易に別々に取り分ける事が出來る。木タールは甚だ多樣の者の混合で、其まゝ皮膚病の塗布劑にも使ひ、又は之に更に化學者の手を加へて、其中から、パラフイン、ワゼリン、ナフタリン、石炭酸、グアヤコールなどを製取する事も可能です。併し之等も石炭乾餾の時、同樣に出來る石炭タールの方を實際上は其原料にして、木タールは大概、すぐ再び竈の方へ送つて、乾餾釜を熱する爲に、燃燒して仕まひます。

瓦斯體は主に水素、メタン瓦斯、炭酸ガス、一酸化炭素ガス(猛毒)等の混合から成つて、炭酸ガス以外の者は、皆燃燒する物質ですから、石炭ガス(即燈用ガス)の代りにも使へますが、之も普通は木タール同樣、すぐ乾餾用の熱源と致します。

醋酸

木材乾餾の時に出來る、經濟上最貴重な産物は、炭並びに木醋であつて、木醋の中に含まれてる最重要の物質は醋酸と及びメチルアルコホルとです。

か樣に、適當な方法さへ用ゐれば、有益な産物が、澤山得られるのに、我國の在來の炭燒法では、其製産品の一部、即ち木炭丈を取つて、其他は皆土中若くは空氣中に逃がして仕まふのですから、實に勿體なくつて仕樣がないと思ひますが、併し我國の現在の一般人民の智識の程度、又は現代の化學工業の程度では、殘念ながら默過する外致し方がありません。尤も追々近年になつて、在來の炭燒かまを少々改良して、木醋中の醋酸の幾分を採取してをる所が各所に出來たそうです。(例へば和歌山縣、埼玉縣の秩父、

（靜岡縣の伊豆、四國、九州の各地）

醋酸は別に普通のアルコホル、乃至は酒類を醱酵させても之を作る。酒から作れば、普通微量の砂糖や、蛋白質や、芳香性の物質などが含まれてをつて、之を直ちに食用の醋にする事が出來ます。我國の在來の醋は、皆此方法で作つた者です。食用醋中の醋酸の含量は、大抵三％内外です。

木醋の中の醋酸の量は、凡其百中に十を含む。之を精製して純粹の醋酸として、種々の化學工業、特に色素工業、製藥化學などにも使ひ、又最も多くは之から所謂人工醋を作るのに用ひます。純粹の醋酸は一名冰醋酸とも名けて、冬の寒い時は冰結して一寸冰の樣に見え、暖くなると次第にとけて酸性の頗る强い液體となります。

冰醋から人工醋を造るには、其三分に水約百分をまぜて(目方の割合)、之れに小量の砂糖と、微量の醋酸エステルとを加味すれば良い、之を酒から造つた醋に較べて見るに、第一人工醋は極めて淸潔である。此方には、醱酵製の醋に見る樣な、種々樣々な微生物を少しも含んでをりません。第二には味も此方が宜しいと申す事です。第三には勝手氣まゝの濃さの醋を作る事ができる、それから値段もこの方が却て廉くあがるといふ話です、冰醋酸は一ポンド凡そ一圓位かと存じます。

（以下次號）

育兒

初夏小兒衞生の一二

醫學士　井上吉之助

今は已に梅雨の季節で之れが開けると暑氣も亦加はる事と思ふ、殊に今の雨季に於ては空氣が濕潤であるのと、其れに溫度も相應に高いので草木の繁茂が著しいと等しく、黴菌の發生にも亦最も好都合の時期である。從つて食物が腐敗する傾きの早いのも

今頃が尤も烈しい事は一般に知られて居る事である。元來小兒は尙判斷力の發達して居ない者であるから斯かる時期に於ては頗る害を受け易いのである、不潔なものや、食物の腐敗して居るのを自ら定める事が出來ないので之れに觸れ易い、周圍の人々が之れを避けさせねばならない、であるから初夏に小兒が尤も多く罹るのは胃、腸病である、其他腸窒扶斯、赤痢の樣な傳染病も亦少なくないのである、之れ等の病氣は避ける事の出來ない場合もあるが多くの場合は不注意から起るものである。

小兒は潔不潔の見界なく凡ての物に手を觸れるのである、又よく庭や外の土の上で遊ぶので、そして物を喰べる時手でつかんで口へ持つて行くので甚だ危險である、であるから食事の前には必ず又出來れば食事を濟ました後にも手をよく洗ふてやるがよい、其他屢々傳染病の侵入門は口腔、鼻腔及び咽頭であるのであるから常に健康の時から勉めて含嗽をなし、又齒牙を淸潔にし齲齒等に食物の殘りが附著しる居ない樣にせねばならない、齲齒に介在して居る食物の殘り等は黴菌に取つて尤もよい餌であるのである。

消化器殊に腸胃の障碍が最も起り易いのであるが、一般大人に比して小兒の胃腸は弱いのである、中でも哺乳兒と、大きな小兒とは又頗る趣きを異にして居る、滿一年以下の者は尤より、一年以上であつても主として乳(母乳又は牛乳)で榮養し其の間に(ツツプ)とか少量の粥等を初めて居る位の者に在つては之の夏期の消化不良が屢々其一命に係する事があるのであるから、單に腹が惡い位に思ふて油斷してゐること取り返しの付かぬ事に立ち到るもの少くないのである、其れに就て母たる人、又保母が注意せねばならぬ事がある、先之れ等腸胃障碍即ち主として初めは下痢であるが、其下痢の起るには何か原因の存在するのが常である、甚だ少さい哺乳兒であれば乳を飮ませ過ぎるとか、時を定めずに無暗に飮ませるとか、等である、其れも母親の乳のみの者なれば

害となる事も少ないが牛乳で育てゝいる者には一寸した事で大いに影響する事がある、然し母親に病氣があるとか又乳に悪いものがあるとか言ふ時は又等しく害がある、それから生後半年以後になると其食物に對する慾望も強くなるので、自からか又は周圍の人々から今迄慣れぬ食物を口にする事がある、之れが屢原因になる、殊に前にも言ふ如く季節が悪いので腐敗しかゝつた物などを喰べると忽ちである、尚又小兒の體質の方から言ふても生來腸胃の働きの強い者と、弱い者とあつて同じ様な物でも一方の兒には何ともないのに他方の小兒には消化不良を起す事がある。

扨て斯くの如くにして小兒に殊に哺乳兒に消化不良が起つた時第一に其の徴となるものは下痢である、單に一般の人が下痢と言ふ中にも種々ある、全く水の様な事もあるし、多少かたくて粥の様な事もある、それに晝夜に於ける回數を氣を付ける必要がある、次には其の糞便の色と臭氣である、殊に出た直後に於て臭氣が烈しいの否かを見て置かねばならぬ、便が水の様で臭氣の悪いものは頗る不良なのである、其次には性質及混雜物の如何である、ポツ〳〵して居る顆粒様のものがあるか、又鼻汁、又は寒天の様に見ゆる粘液が有るかないか、尚進んでは血液等が混じつて居りはしないかも見定めて置く可きものである、之れ等の事柄は常に其小兒を取り扱ふて居る母なり其の他の人なりが良く見て置いて診察を受ける醫師へ傳ふべきものである、其の外、注意すべきは食慾の如何である、卽ち乳の飲み方が悪くなる、以前の様に乳を欲しがらなくなる事である、之れは初めは注意しないと氣付かぬ事もある、若しそう言ふ模様が見えたならば決して無理に飲ましては不可ない、むしろ思ひ切つて飲量を少なくする位がよい、尤より其道の人の指揮を受けるがよいが、それにしてもそう言ふ方針で遣る様にせねばならない、尚進んで之れ等の外に嘔氣があるとか、已に嘔吐があつたとか、それに加ふるに熱も出る様になつては已に

重症のものと思はねばならぬ。

以上は主として哺乳兒の消化不良の時家に居るものの注意すべき二三の點であるがやゝ長じたる者になるといろ／＼自からの訴へがある、腹が痛むとか、苦しいとか、言ふので亦之れも參考になる、注意すべき事は大體前言と同じである、只病氣自身が哺乳兒の時の如くに急に危險のものになる樣な事が少ないのである、然し又中には短時間で命を隕す樣なものもある。

次には之の季節に於て殊に氣を付けねばならぬのは傳染病である、中でも之れから多く見るのは赤痢、疫痢、腸窒扶斯等である、何れも主として腸胃を犯す所の傳染病が多い、之れ等に對しては十分豫防を心掛けねばならぬ、其れには消化不良に對する時と同じ樣に原因となる者の侵入を防がねばならない、不潔なものゝ入るのを、出來るだけ注意する事、尙其れよりも先きに腸胃を常に强壯にして置く事が必要である、消化不良に陷ゐる事を豫防して居なければならぬ、消化不良があると之れ等の病氣にかゝり易く、又重くなり易いものであるから、常に消化の作用を整頓して置くがよろしい。

之れ等の傳染病は哺乳兒に來る事は極めて稀にしてやゝ長じたる小兒に多い、必ず熱のあるものであるが其の熱の出る樣になる前卽ち傳染してから病氣が發現する迄に前驅として種々の症狀があるのが一般である、時には突然と高熱と夫れ々に特有の症狀とが出る事もあるが、それにしても多少の度に於て常と異なる事を見出すものである、其の異常としてよく見るものは、小兒が機嫌が惡くなる、元氣がなくなる、今迄威勢よく外で遊んで居つたものが兎角に家に閉じて、疲勞した樣にしてゐる、玩具を持つて遊ぶにしても物憂い樣子をしている、その外食慾が減る、又、頭痛がするとか腹が痛むとか、かしこが痛むとか言ふ、こう言ふ事が一二日又は數日續いて、然も後熱が出る、尙病氣の種に因つて下痢があつたり、又便祕がある事もある、然し元來小兒は遊びに

熱中するもので　少し位の事では遊んで居る時は、注意しないと氣の付かぬものである、何れにしても熱が出る樣になれば醫師の診察を受けて所置せねばならぬのであるが、差し當つての注意としては、兎に角、牀に就かして靜かに寢かしてをく事、口や咽頭を出來るならば清淨にする事、次に食物は成るべく消化のよいもの、殊に流動物を與へねばならぬ、かくて醫師の指揮をうけるがよろしい、若も傳染病の疑ありとか、確かにそう定まつた時には他に兄弟の小兒があれば出來るだけ隔離をするがよい、また小兒の通つて居る小學校で他に傳染病の者が現はれたならばある期間登校を見合す事も必要である。

發育の病

小兒の發育は、年齡、時期によつて、その身長、體重、その他筋肉や脂肪のつきかた、從つて身體の容姿にも、一定の割合がありまして、健康なれば、略ぼその割合を保つて尋常に發育して行く筈のものであります。

それが、その發育が中止するとか、或は非常に急劇に成長してしまふとか云ふ風に、規則正しく行きませんと、所謂發育の病と稱せられるのであります。これは何れの年齡、何れの時期にも起り得るものでありますが、殊に十二歳から十六歳の間に起るときには、最も著しいもので、餘程注意しなければならぬ事であります。

即ちこの年齡に於ては　小兒の身體は、非常の勢を以て發育するのでありまして、完全に發育した人間の體格を現はして參りますが、この發育期に於て何ぞ故障が起りますと、將來の爲に容易ならぬ病の素因、即ち下地を貽すことが多いのであります。その故障と申しますと、所謂神經性のものが多い、それで小兒は、絶えず何やら不安の容姿で、疲勞し易く、頭痛を訴へ、顏面は蒼白くなつて、機嫌が好くないそれから動悸がすると云ふのは、最も數次訴へられ

る所の症狀であります。然しこれは別に危險な心臟病があるのではない、全く神經性のものであります。尚ほこの際、發育痛と云ふものゝあることがあります。それは、脚の骨に一種の痛を覺える、或は筋肉に痛のあることがある、而してこれは特に身體の運動をした後に起るものであります。

斯様な狀態は、左程心配すべきものでもないやうでありますが、然しこれを放置して置きますと、前にも申しました如く、後になつての種々の病氣を起す下地となる、殊に結核病に侵され易くなるものでありますから、出來るだけ用心をしなければなりません。

この發育病を豫防致しますのには、先づ以て榮養法に注意しなければなりません。即ち飮食物の衞生的注意が肝要であります。食べ過ぎも宜しくないが、食べ足らずは尚ほ宜しくない。酒類は何によらず禁じなければならぬ、卵又は藥味類は只少量に與へても差支ない。果物、野菜、麵包、豆類、粉製の食物などは十分に與へて宜しい。それから肉類は、なるべく澤山與へることが必要である。

次に必要なるは新鮮の空氣で、これは晝の間のみならず、相成るべくは、夜間も適當の方法を以て室內の風通を善くし度いものであります。

仕事は、凡て規則正しくして、屢々休憩するやうにし、決して長時間のべつたらにさしては可かぬ。時間外には、宜しく遊戲體操を行はしめ、女の子も遊戲に混ぜて宜しい。

衣服は、なるべく簡單で、運動を妨げぬものが宜しい、女の子のコルセットの如きは大の禁物である、斯様な愚な物を輸入してはなりません。單純の細帶に、行燈袴で結構であります。

それから一般に必要なのは、強固法及び皮膚の衞生でありますが、これも無法にやれば、反つて害を招きますから、一應醫師に相談して、その方法も聞いて行へば、至極有益であらうと思はれます。

家庭衞生

食合はせと云ふ事

小寺顯二郎

我邦では昔から、よく食合はせと云ふことを云ふ。卽ちある食物と他の食物とを一緒に食すれば、中毒し、甚しきは死すると稱して非常に愼むだものである。實際これは全く理由の無いことゝは云はれない。毒を含むで居るものを食する日には他の物を一緒に食べなくとも中毒し、又は死亡することがあり得べき筈であるから、又全く食合はせて始めて一種の有毒物を化生することもないとは限らぬ。併し今日の醫學、化學の上では、まだ一向その邊の研究が屆いて居ないから、確かには言ひきれぬが、先づ大抵心配は無さゝうに思はれる。純粹の藥物でさへ、配合禁忌を犯しても、大抵その效力を減殺するとか、或は幾分その作用が强くなると云ふだけのことで、それが化合して新に猛毒のものが出來ると云ふ場合は甚だ稀であるから、普通人間の食用にして居る程のものを二種或は三種食合はせたからと云ふて、それで人が死ぬる程の毒物が腹の中で化生せられるとは一寸考へられぬ。但し絕對にあり得べからざることゝは云はない。生豆にシホカラなどを食べ合はしたらば胸が惡くなるかも知れないけれども、昔の人の云ふたやうに、しかく無暗に中毒するものではない確かに大部分はデタラメである。試みに古來合食禁忌と稱するものを擧げて見れば、

鰻魚に梅干　枇杷に蟹
楊梅に炒豆　金柑に蕃薯
馬齒莧に胡椒　綠豆に榧子
商陸に芹　螺に昆布
麥門冬に鯽　泥鰌に萆薢

などゝ云ふ配合で、斯樣な禁忌が殆ど無數にある。

所が西洋料理や支那料理の中には、その合食禁忌が幾らもあるから可笑しい、而して西洋人や支那人は中毒もせず死にもしないから、いよ〳〵デタラメの本性が明かになる。例へば鯉に胡椒が悪いなど〻云ふが、支那料理では、鯉に胡椒を用ひる、萵苣にも胡椒が悪いと云ふが西洋料理では通常の如くこれを食ひ合せて居る、蜷に砂糖が悪いなど〻云ふたが、今日では蜷の甘露煮など〻云ふものがある。斯様な譯で、胡椒が珍らしく、砂糖が貴かつた時代に儉約をさせる爲に人を馬鹿にしたのか、又實際山間の者が生魚を食べて嘔氣を催す類で、斯様な珍らしいものに胃袋がびつくりして吐いたとか云ふ所から起つたものであらうと思はれる。先づ十中八九は例のデタラメと見て差支がない、

兎角學問の開けぬ時代、即ち口傳や經驗のみに據つて精密な實驗的研究法の行はれなかつた時代の事は眞しやかにして全く虚僞の事が多い、例へば海鼠を藁で縛れば溶けてちぎれるなど〻云ふことは、如何にも眞實のことのやうに信じられて居るが、全く虚言である。鮑を大根で叩けば柔かになる又大根と一緒に煮ても軟かになると云ふが、何を以て叩いても柔かになり、何と一緒に煮ても軟かになるのである凡て此の類の馬鹿〳〵しき事のみ多く、特に醫學や衛生上の事に至ては甚しく迷信が混じつて居る。

然ればと云ふて、この合食禁忌の中には、長年間の經驗に基いたもので、稀には多少眞實の事なきにしもあらずと思はれるから、強ひて合食禁忌のものを撰んで食べる必要もない、實際料理として餘り面白くないものが多いやうである。殊に斯様なことを深く信じて、さう思ひ込んで居る人に無理に食べさせたならば、精神的に病氣を惹起すこともあるから、敢て強ふべきことではないが、併し場合に依ては誠に不都合の事もある。私が二三ヶ月前に一人の發育不良の小兒を見たが、その母親に尋ねて見ると、此の母親は極めて愼深く、脂氣のものは乳に宜敷ないさうだから斷つて居る、菠薐草は血が荒れるから

食べませんとか云ふ風に、肉類、野菜類にも幾多の禁忌食を持つて居つて、狹い範圍の食物を取つて居ることを知つたので、懇々その愚を諭して何でも食べるやうに、全く小兒を生む前の食物に復させた所が、それから乳も十分になり小兒の發育も良くなつて來た。斯樣な譯で、昔の人の言を悉く信ずると、隨分馬鹿な目に逢ふからして、餘り譯の分らぬ新法を輕卒に採用することは最も愼まなければならぬが舊習の迷信はなるべく破つて行くやうにしないと、爲めにならぬ。今日の學理では、まだ合食禁忌の如何を確然と論ずる譯には行かぬけれども、從來の說は七八分通り虛言であることは云へる。今日誰も兎を食べれば缺脣の子が產れるとか、鼈を食べればその子の頸が長いとか、牛を食べれば角が生へると云ふ說を信ずるものもなからうが、昔は眞面目にさう考へられたのである。それでこの種類の老人の御客樣などには、矢張昔々の合食禁忌を心得て居て料理をしないと、折角の御馳走も仇になることがあるから、其邊だけは氣をつけなければなるまいと思ふ。

要するに、病氣の時は別物であるが、通常の時には餘り合食禁忌などは必要のないことである。但し特異性と云ふことがあつて、人に依ては、妙な食合せに由て腹が痛んだり、胸が惡くなつたりすることはある併しこれは一般に推して云ふべきことではない

ソップの效能

ソップの效能については、大變買ひ被ぶつて、所謂滋養物であると稱して賞用する人もあるが、近頃は又ソップなどは榮養質を取除いてしまつた滓で、榮養上には一文の價値もないものであると云ふて、無下に擯斥する人もある。然しこれは何方も極端の考で、兩方共間違つて居る。

もとより身體の榮養と云ふことに就て、ソップの價値を過重するは誤である、少なくとも、これに依て眞の榮養物質を輸入し得ると思ふのは間違である

が、併しながら、人體の榮養竝びに健康と云ふことに取つては、餘程大なる意味を持て居るものである先づ第一に、肉の羹汁は、大に食慾を進めるもので神經を興奮させ、働を活潑にする作用があるからして、健康者にも、病人にも、眞の榮養物を攝取する準備として、卽ち道つけには頗る適當の興奮劑である。且つこれに卵を加へるとか、又は穀粉、米、引割麥などを加へて煮れば、立派な榮養品が出來る。のみならず、ソツプその物も、全く榮養價のないもので、人體の經濟には益の無いものであると云ふのは、少しく輕卒な判斷である。現に百分の新しいソツプは〇・三五分の蛋白質と〇・三分の脂肪を含み、尙ほ五カロリーの熱單位、卽ち力となるものを含むで居るのを見ても分かる、ソツプその物も決して榮養價の全くないものとは云ふことが出來ない。尤もこれに眞の榮養物質を加味すれば、忽ち榮養價の高まることは明かなことで、卵を加へた百分のソツプは、三・八分の蛋白質と三分の脂肪と四三の熱單位を含むやうになる。それでソツプと言ふものは、榮養品と云ふことは出來ないが、直接に消化器に作用して、消化機能を助けるもので、先づ第一等の嗜好品と云ふてよい。且つ又その溶け易い肉の鹽類に由て、神經や心臟の働を催進し、衰弱、失神、身體の疲勞した時又は氣力の無い時などには、新に元氣をつけ、精力を增す效能がある、殊に注目すべきことは、同じく嗜好品中に數へられる所の酒類やコーヒーなどに較べると、無害有益で、而かもその作用が酒やコーヒーよりも、よく長く働くことである。食慾が害せられ、衰へ、又振はぬと云ふやうな場合には、ソツプは頗る妙である。食慾を振はし、消化器の爲には大に效能がある。

尙ほ一つソツプの效能を述べれば、眠り難い時、所謂不眠の際に、牀に就く前に溫いソツプを一杯飮めば、多くの場合には、よく眠れるものである。その他一般に衰弱して居るもの、病人、又健康者にも、往々一皿のソツプが、頗る有效に働くことのあ

るのは、何れの醫師も經驗して居ることである。

黒衣と白衣

僧侶は黒染の衣を纏ふが、神官は白妙の裝束、職人の扮裝は紺の半被、股引と定まつて居るが、看護婦の服は白色に限つたものである。鴉や鵜は黒いが、兎や鷺は白いのが普通。これにもそれ〲の理由因縁があるに違ひないが、それは動物學者、生物學者と云ふ向きの人々に尋ねることゝして、兎に角僧侶の黒は、俗氣を去つた積りの色で、神官の白は潔淨を貴んでの色、職人の黒は、汚目の見えぬが爲め、看護婦の白は、汚目の見える爲めの色であらうと思ふ。

さて白と黒との善悪、黒白如何の問題、他の事より論ぜば、又それ〲の便不便、適不適の場合はあらうが、こゝ衞生上から見て、黒ずむだ着物と白ぽい着物と何方が何うであらう。

これを論ずるには、先づ着物を着る本然、人體の生理を一言しなければならぬ。生理と云へば大袈裟であるが、人の身體は温い。温いと云ふのも、人が温いと感ずるので、鳥は人の身體は冷たいと云ひ、蛙は人の身體は火のやうだと云ふであらう、つまり、體温に一定の生理的定限があつて、人の身體は夏冬共に攝氏三十七度と定まつて、朝晩、其他の事に依つて、多少の變化はあつても二三分を上下するに過ぎぬ、これより超えれば、それはもう生理の範圍を脱したもので、病氣の徴と云はなければならぬ。季候の寒暑、朝夕の寒暖に拘らず、略ぼ同一の體温を保つのには、そこにそれだけの仕掛がなければならぬ。それはそも如何の事ぞと詮索して見れば、皮膚と云ふ天の羽衣ではない革衣、これに何でもないやうで、而かも巧妙不思議の仕掛がある。と云ふのは、體内が熱くなつても、外から熱くなつても、無數百千萬の毛穴が弛むで、餘分の熱を吐出し、又汗を出して以て盛に熱を奪はしめる。これに反して寒

いとあれば、忽ち毛孔を縮めて、所謂肌に粟を生じて、熱を逃さぬやうにし、甚しければガタ〳〵と身を振はし、歯を叩いて體内に熱を起すと云ふ次第で、巧に體温を調節することになつて居る。が物には度と云ふものがあつて、幾ら巧妙の人體でも、甚しい寒氣、法外の暑氣に逢つては、生理的の機能だけでは間に合はぬ。こゝに於てか衣服の用あり、發明あつて、人生無くてならぬものゝ一つに數へられて居る。尤も當今では、人生最も厄介な贅澤品の一つとも見えるが、もと〳〵必要あつて出來たものが、斯様な風に化けて、却て衣服の本意が忘れられるやうになつて來たまでのことである。

これだけのことを述べて置いて、さて色合の黒と白、暑い寒いに、どう關係して來るかと云へば、元來黒は熱を引き、熱を吸ふの色、白は熱を撥き、熱を受けぬ色である。何より證據、夏の日向に、素肌に紺絣を着て、ものゝ三十分も庭前に立て見る。背中は焼けるかと思ふ程に熱くなる。そこで白地に着換たならば、丸で活き返つた程涼しいことが分かるであらう。夏は白木綿の肌着、白のチヨツキ一つでも大分暑さが異ふ。白い衣の涼しさうに見えるは、字を聯想するからばかりではない、實際自分が白地を着て、黒地よりも涼しかつたことが、知らず〳〵何とはなしに思出されて、涼しさうだと觀ずるのである。實際涼しいのである。他は總てこれから推すことが出來る。それで夏は、なるべく白いものを用うるのが理にも適ひ、實際上にも適して居る。縦令上には黒絽の羽織を纏ふとも、白地の單衣を着て居れば、別に暑くはない。夏の洋服はつらいものであるが、白シヤツ、白ヅボンで餘程凌げる。

右は夏の暑さに對する白地の功徳を褒めたのであるが、白地は冬も亦宜しい　と云へば、餘りに白贔のやうではあるが、實際然る理由がある、それは何う云ふ譯かと云ふに、前にも云ふ通り、白は熱を引かぬ色であるから、白地の肌着を着れば、身體の熱を止めて外に出さぬから、温かい理窟である、黒で

は、どん／＼熱を引いて外に出してしまふ。斯ふ云ふ理から、白が宜しい。上衣も白にして差支はないが、悉く白装束では、餘り飾がなくつて面白くないから、銘々勝手次第に好きな色を選んでよいが、下著だけは、どうしても白が可い。熱の傳導と云ふことは、又ちとこれとは異つた理窟になるので、それは主に衣服の地質の話に關係して來るから、こゝでは論せぬことゝして、色だけの白黒に止める。

以上は熱に對する黒衣白衣の差異から、衞生上の利害得失を論じたのであるが、もう一つ衞生上より黒衣白衣の利害得失を論ずべき件がある。それは何かと云ふと、清潔、不潔の點から衞生上黒衣白衣、どちらが宜しいかと云ふ論判である。この點になると、暑い寒いよりは、尙ほ一層直接衞生上肝心な事であるが、こゝでも矢張白色に肩を持なければならぬ先づ今日最も清潔を貴ぶ所の繃帶材料、即ち創口に當て、これを被ひ、これを緘る所のガーゼ脱脂綿、繃帶類、手術著、看護服などの總て白色なるは、そも何が爲であらう、決して値段が廉いからばかりではない、直接人の生命に係ることを値段の高い安いで左右するものではない、これは全く清潔と云ふ點から白色を用うるのである。尤も今日の外科學で云ふ所の清潔不潔は、俗人の云ふ奇麗汚ないとは大分意味が違ふ。凡て醫學上で眞に清潔と云ふのは、一言に云へば黴菌を含むで居ないことである。外見が如何に汚なくとも、黴菌が無ければ、それは清潔なもので、何程美しく見えても黴菌、特に病原菌などが附いて居るものは、この上もない不潔物である。然らば何も白色のものでなくとも、黒色でも可さそうなものだか、黒では、清潔不潔の見分けがつきにくい、黒では所謂汚れ目が見えないから、兎角不潔を看過し易い、これが外科などで黒布を用ひず、白布を用うる所以である。普通の無學の吝嗇的經濟の見繆ひとは、とんと趣を異にして居る。種々の用途、その向々に依て黒地のものも勿論必要であるが、通常所謂儉約家が小兒や、下女下男の衣服に黒地を選

む所以のものは、主として汚れ目が見えなくつて宜いと云ふ點にあるのである。然るに衛生上から宜しくないと云ふのは恰もこの點である。

近頃は、段々小兒の胸當には白い布が流行つて來たが、これは結構なことで、二三歳の小兒が一日遊び暮した後で、その掛けて居つたアブラヤサンを檢査して見ると、涎やら鼻汁やら、それに餡粉も著いて居れば、泥も著いて居ると云ふ譯で、實に不潔になつて居る、いやでも洗濯してやらなければならぬ。これが若し黒い布のアブラヤサンであつたら左程目には立たない、二日三日、一週間位もそのまゝに放擲つて置く、種々の黴菌が、前の涎や鼻汁や餡粉で出來た培養地の上に盛に繁殖する、從つて臭くなる、それでも小兒は、そんなことは平氣である。矢張汚れた手をそれに擦つけて、その手で以て又菓子やカステラなどを口に運ぶ。これが衛生上良いか惡いかも分からぬやうな人は、とても度し難い人で、衛生雑誌などを讀む柄の人ではなからうと思ふ。これで一つ黒衣白衣に關する衛生上の黒白が判決された譯である。

次に日常 衛生上 最も大切な飲食物の調理せらるゝ臺所に立働く女中の前掛、これも汚れ易いから白いものは禁物になつて居つた。女中も洗濯するのは面倒だから黒い物でないまでも汚れの目立たぬ布を選ぶ。目立たぬから手拭代りに、糠味噌を出した手でも、便所に行つた手でも前掛で拭く、而して都合に依てはこれを以て食卓なども一寸撫廻してくれる。皿なども場合に依ては拭巾の代りに一寸拭てくれぬものでもない。さあ衛生家の奥様は勿論、例の儉約家の奥様方でも、これを考へたならばどうであらう。不衛生たることはこの上もないが、傳染病の大多數は、窒扶斯でも虎列剌でも、赤痢でも皆口から這入る、飲食物から來ることを承知して居る以上は、その危險さ加減は云はずして知れたことで、縦令傳染病と云はずとも、單に胃腸加答兒に罹つたゞけでも、その不幸不經濟は莫大なものである。一回醫師にか

かるだけの治療代を以て女中の胸から掛ける料理服が二三枚も出來る筈である。斯樣な譯で女中の臺所服、或は前掛の白地が、衛生的で且不經濟ならざることが分かる、のみならず、これより延いて臺所全般に渡つて清潔が保たれるやうになるであらうと思ふ。

もう一つ序に黑地の布の用ひ所の惡いのを云へば、夜具蒲團の襟である。これも大抵汚目の立たぬやうにと云ふ例のわうちやくな流義から黑い物を用うる惡習になつて居る。兎角最も不潔になり易い處、從つて衛生上最も注意を拂はねばならぬ處に限つて、これを掩蔽し、胡魔化す工夫をして居る。自分の家の夜具蒲團は、豚が自ら臭氣を知らぬと云ふ譯で、餘り氣にも止めぬが、旅行をして田舍の旅宿などに止まつた時に、羊羹色の天鵞絨の襟の著いた夜着を掛けて、頸のあたりに冷やりするやうな目に逢つた者は、如何にこの黑襟の無氣味なものであるかゞ分かる。而かも前に如何なる客が用ひたものか分からぬ、若し肺結核患者が著たものとすれば、この黴菌や塵埃を吸收し易い天鵞絨襟には、必ず結核菌が無數に附著して居るものと思はなければならぬ。この襟を口の邊まで引被つて一晩寢るものとすれば、どうしても結核菌を吸ふに違ひない。これ等は大に注意すべきことで、實に寒心すべきことである。この一例を以ても襟に黑天鵞絨を用うることの宜しくないことは明瞭であるが、假令天鵞絨でなくとも黑色は不潔になつても氣がつかぬから宜しくない。なるべく白い布を掛けて置いて、少しく汚くなつたならば、その度毎に洗濯して清潔なものと交換することは衛生上頗る大切なことである。

要するに、特に清潔を欲する所には、なるべく白色の布を用うるやうにしなければならぬ、即ち汚目の立つやうにしなければならぬ。黑色の物は汚目が立たぬと云ふだけで、穢くない譯ではない、穢いことは同じであるが、只それを胡魔化して、自ら欺くのである。衛生上それだけ一層危險である。斯樣な胡

魔化し主義は、衛生上危險なるのみならず、人間の德性上の危險である。

看護法（承前）

四、病人の監視と報告

看護者は、單に病人に附添ふて居るばかりでなく、又よく病人を監視して、凡て醫師の見ぬ間に起つた事を、醫師に知らせることの出來るやうに勤めなければならぬ、これは最初から慣れるやうに心掛けねばならぬ大切なことであります。若し大勢の患者を取扱ふ場合であれば、その觀察した所の事柄を手帳に控へて置く、醫師の言ひ附けた事もこれに書留めて置て忘れぬやうにしなければなりません。

こゝに眞實の慈愛、慈悲心の必要であると云ふ事は、これは冒頭に於て申上げて置た筈でありますから、今更改めて申すにも及ばぬことゝ存じます。

（イ）病人の全身狀態

牀について居る病人の容姿は、實に樣々なものでありまして、これに由てその病氣の模樣、又治癒の望の有る無しも判斷せられるもので、殊に疑はしい場合、又就中小兒に於きましては、疾病診斷上の據所となるものであります。

尙ほ病氣の人相と云ふことさへ申しまして、病人を外から眺めた、その容姿に依て一定の病氣の所在が分かると云ふのであります。醫師は元より精密に檢査した上でなければ、決して最後の診斷を下すものではありません。只外部の觀察から何うかうと、內部の病の診斷をしやうと思ふのは、輕卒な話であります。

前にも申しました通り、この觀察と云ふことは、小兒室に於ては、特に大切な事であります、卽ち小さな子供は何處に痛みが在るか、何んな感じがするか、何う惡いかをよく告げることが出來ませんから、看護者がその小兒の容姿を注意して居つて、小兒の將に告げんと欲する所を補ふやうにしなければならぬ

のであります。

こゝに一二例を擧げて見ますならば、一人の小兒がお母樣の腕に抱へられて居つて、氣遣しさうに肩にしがみついて、顏面は蒼白く、頰は熱がありさうに赤く、脣は少し紫色を帶び、呼吸がせはしく、短い咳嗽をして、何處ぞ痛さうに、低い聲で呻吟やむに泣て居るならば、これは略ぼ肺炎又は肋膜炎に罹つて居るのであらうと云ふ見當がつくと云ふやうな譯であります。

哺乳兒が、牀の中で靜に寢て居らず、輾轉して、痛さうに顏を顰め、啼き立てゝ、脚を腹に引つける時には、恐らく腹痛があるのである。又小兒が激しく啼き叫んで頭を枕に埋めるとか、兩手を以て頭を摑むやうな時には、大抵これは頭痛がするか或は耳に痛があるのであります。小さな兒童が、無頓著になつて、驚愕したやうに、前の方を凝視め、時々大聲を出して啼き、往々嘔吐し、又僅かの物音に驚き、睡眠中に急に啼出すと云ふやうな場合には、これは腦の病ではないかと考をつけなければなりません。

又病人が何時も一側を下にして寢て居つて、寢返りをする時には、呼吸が苦しくなると云ふことを訴へるならば、恐らく胸に水などが溜つたのではなからうか、殊にその下にして寢て居る方の側に水が溜つて居るのでなからうかと推察される、何故かと云ふに、反對の側を下に寢る時には、その水が健康の肺を壓つけるので呼吸が苦しくなるからであります。

種々の病人、特に心臟病患者などは、胸が苦しいので往々牀の上にちやんと跪坐することがあります。又衰弱して居るものは、屢々枕をはづすものでありますが、或は病人に依ては興奮し、刺戟性になり、不安になり、譫語を云ひ、時としては寢牀から脫出さうとするものもありますから、餘程注意しなければなりません。

(ロ) 睡眠

健康な人は、睡眠中も深く且つ規則正しく呼吸致しますけれども、病人は往々速かに、或は最初早く呼

吸をして、それから緩慢に呼吸し、終に暫時呼吸を止めると云ふやうなことを致します。

又多くのものは、不安で、輾轉反側し、急に起き上つて譯の分らぬことを饒舌たり、溜息をしたり、呻吟いたり致しますが、又他の者は、丸で昏迷狀態になつて、暫時は、食餌を取らせることも出來ないと云ふ有樣であります、殊に腦病の人などには往々斯ふ云ふことがあります。

最も屢々あるのは、不眠症でありまして、これは重病者には限らず、神經質の人は、大抵不眠に苦むものでありまして、これが爲めに益々身體も精神も弱つて參ります。斯樣な人は、決して睡る前に茶とかコーヒーとか云ふ種類の興奮するものを飲んではなりません、又なるべく周圍で談話をしたり、騷がしくしたりしないやうにし、餘り明るい光も避るやうにしなければなりません。

不眠に對する家庭療法としては、腹部のプリスニッツ罨法も宜しい者であります。催眠劑の必要な場合もありますけれども、これは普通の臭素劑であつても、必ず醫師の處方に依るべきものであります。

物音に妨げられて眠れぬと云ふ時には、これを簡單に有效に防ぐ方法があります、それは次のやうにすれば宜しいのである。

先づ幅が五分、長さが二寸か二寸五分位の綿を切つて、その兩面に厚くワゼリンを塗り、これを團子に丸めて、外聽道を堅し塞ぐのであります、通常枕に著けない方の耳だけで澤山でありますが、必要の場合には兩方の耳を塞ぎます。よく栓が出來て居れば、殆ど何も聽えず、物音に妨げられずに眠ることが出來ます。

（ハ）皮膚

皮膚に於ては、皮膚の色、即ち蒼白であるとか、或は紅色とか云ふことに目を止めなければなりません。又癌腫などの如き惡液質になる病、或は黃疸に於ては皮膚は黃色になり、空氣缺乏、心臟病及び肺病等では紫色になることがあります。

その他皮膚の發疹に注目しなければなりません。これには斑點、結節、透明の液を含むで居る所の水疱、膿を有つて居る所の膿疱、稍や大きな、白い、少し皮膚の隆つた斑點を生ずるカザホロシ（蕁麻疹、南京蟲に螫された痕）、濕ふた、表皮の剝れた部分、皮膚潰瘍等があり、又癤腫即ちフルンケルと云ふのは、膿と腐つた栓を含むで居る所の太い塊で、所謂チブトと稱する所のものであります。カルブンケル即ち癰と云ふのは、つまりチブトが澤山集つたやうなものであります。

面皰と云ふのは、皮脂腺が塞がつたもので、往々化膿することもあります。壓つぶす時に、白い蟲の樣なものが出ますが、これは蟲ではない、固つた皮脂で、その頭の所の黑く見えるのは、不潔或は塵埃によるのであります。

發疹と蚤に螫された痕と間違ふことがありますが、蚤の螫した痕は赤く、稍や帶青赤色になることもありますけれども、よく見れば眞中に螫した痕があり指で壓しても色は消えぬものであります。

又皮膚は、溫いことがあり、冷たいことがあり、乾いて居ることも、濕ふて居ることもあります。汗も多いことあり、少ないこともあり、全身に發汗することもあり、一部分だけに發汗する場合もあり、汗は、黃疸の際には黃色に著色し、往々臭のあることがあります、例へば結核病者の汗は、一種固有の臭を突くやうな臭のすることがあります。

按摩の勸め（承前）

前回には輕擦法について、お話を致しましたが、もう少し述べませんと足らぬやうであります。

前にも申しましたやうに、輕擦法に依て、皮膚の血液循環を善くし、又間接に神經に影響を及ぼして快くするものでありますが、少し力強く行へば、筋肉の中又は筋肉と筋肉の間に在る血管や淋巴管にも作用して、血液や淋巴の流れをよくするのであり

ます。これには單に手の掌を以て撫でるだけでは足りません。卽ち強い筋膜を以て被はれて居る筋肉になりますと、なか〳〵手の掌を以て少々撫でた位では利きません、どうしても指の節を用ひて擦法を行ふ必要があります。それには輕く手を握るやうにして手の附根の所で強く前に曲げ、第一の指の關節の背側の所に出來る髁隆を今按摩せんとする部分の下の端に當て、段々上の方に撫で擦つて行くに從つて、拳を起して行くのであります。

尚ほこれを行ふにも、始終同様の壓を以て撫ては效が少ない、必ず最初は輕く、漸次強くして復び輕くするやうに行はなければ本統でありません。又凝るとか、疲れたとか、苦しいとか云ふ感じのある筋肉を按摩するにも、單にその一部分だけを攻めずに、先づ健康の部分より始めて、その患部を經て、復び健康の部で終るやうにするのであります。場所により、時によりては、指背の節の所の代りに兩方の拇指の頭を横に或は前後に並べて應用することもあります。

各個の部分、又各筋肉について、正確な按摩法を行ふには、多少解剖生理を心得て居らねばなりませんから、六ケしい事は措きまして、輕擦法の例として前膊の輕擦法の要領を一寸述べて置きませう。

前膊には澤山筋肉がありますが、その働から別ければ、伸筋と屈筋との二ツに別けることが出來ます、卽ち手を伸ばして拇指の方に著いて居る筋肉、つまり上の方に在るのが伸筋で、小指の方、卽ち下の方になるのが屈筋でありますが、先づ右手の伸筋族を輕擦するとすれば、左手を以て患者の右手を掴み、右手を腕關節に近き部分に密著して、上から握るやうに置いて、肘の方へ向て擦り上るのです、此の際拇指は太い骨、卽ち尺骨に沿ふて上り、他の四本の指は、內側の中央を通る伸筋と屈筋の間の溝を擦り上るやうになります。而して肘の處、所謂外髁突起の處へ達したならば、手掌は尚ほ膊に密著しながら、拇指と示指が出會ふて終る譯であります。屈筋族の

輕擦は、前と反對に、小指側の方を下から握るやうにして。同じ様に擦上げ、上膊骨内髁突起に至て終るのであります。

一體マッサージを行ひますのには、肥つた柔かな手が宜しい、それで女の手は至極マッサージに適して居りますが、脂手や、汗の多い手は不可ません。斯う云ふ人かマッサージを行はうと云ふ時には、先づその手を乾かして軟かにして掛らなければなりません、それには度々アルコールを以て手を洗ひ、その後でサリチール酸澱粉などをつけるのが最も良いのであります。

軟かな手であれば、別に何も必要はありませんけれども、元來手の皮の軟かでない人は、輕擦を行ふ時にそのマッサージを施す部分の皮膚に少しくゴールドクリームを塗るか、又は二三滴流動パラフインを滴して行ふて宜しいのであります、但し斯様な脂類を多く用ひますと、手の感覺が鈍く、皮膚か滑り過ぎて、本統に力が入らなくなりますから、極僅に用うることであります。尚ほ餘り毛深い人は、少し強く輕擦法を施されますと、毛嚢炎を起して參りますから、斯様な人にマッサージを施す時には、寧ろ毛は剃てしまつて行ふのが宜しいのであります。

（以下次號）

臆病風

『盲蛇に怖ず』の譬で、全く何も分からずば、怖ずべきやうもなきことながら、半盲は又怖ずべからざるものに對しても妄に怖じ恐れるものである。病と云ふことさへ知らなかつた、昔々の人は、別に病を恐れる譯もなかつたらうが、人に病苦あつてより以來、人間は非常に病氣を恐れて、四百四病の神様を拵え出して、或はこれを威し、或はこれを賺し、或は媚び賄うて、病魔の仇を免れやうと努めた。それより此の迷信に基いて妄想的治療法が行はれ、餘程安心するやうになつたが、實際は何れ程の效果もなく、

恐るべき傳染病などは遠慮會釋もなく跋扈したのである。それより段々醫學が進歩して、病の本體も明かになり、豫防治療の道も理に適ふて來たのであるが、一般に衛生上の智識が普及されて居らぬ爲めに未だ思ふ程の效果を收め得ないのは殘念である。これが私立大日本婦人衛生會などの骨を折る所以で、通俗衛生講話、通俗衛生雜誌等の必要は勿論であるが、これにも亦弊害が伴ふ、と云ふのは、近頃の衛生講話や、衛生雜誌を聞いて見ると、主として消極的の衛生法のみを說き、衣食住萬事が病人本位の養生談で、溫室の內で、綿にくるまつて、消毒した牛乳を少々づゝ舐つて居れと云つたやうな調子である。健康な人間が斯樣な眞似をして居れば、矢張そう云ふ豆腐の如き人間に成つてしまふ。本統の衛生は、寒中、莚を著て、砂を食ふても生きて行かれる程の强壯になることである。次にもう一つ宜しくないことは、無闇に黴菌〳〵と云ふて、人を威かし、無用の心配をさせることである。窒扶斯菌は何う云ふ性質のもので、何處から來るか、赤痢菌は何う云ふもので、何うして人體に入るか、從て此等のものを豫防し、撲滅するには如何にすれば宜しいかと云ふやうなことを大體心得て居て實行さへすれば澤山である。それを一も黴菌二も黴菌、空氣も水も一々消毒しなければ呼吸することも、足を洗ふことも出來ぬと云ふやうな說教をする、これが宜しくない。德川時代には谷風、お駒風、お七風、たんぼ風などと云ふ種々の風邪が流行つたと云ふことであるが、明治になつては黴菌風と云ふ臆病風が甚しく流行して來た。空氣にも水にも無數の黴菌が生活して居る、人間は絶えずこれを呼吸し、これを飲んで居るのである。味噌醬油も、酒も黴菌なしで出來るものは一つもない、皆黴菌のお陰である。病原菌と云ふものは極めて稀で、犬の中の狂犬、人の中の盜賊よりは遙かに稀である。それを黴菌とし云へば、悉く人を殺すもの丶やう言ひ罵るのは、沙汰の限りである。尤も病原菌は恐るべきものであるから、十分研

究してこれが豫防撲滅の方法を講じなければならぬ、從つて公衆衛生と共に個人衛生が極めて必要であるから、これに關する衛生講話や、衛生雜誌は是非なければならぬが、徒らに病氣の恐ろしさ加減を述べ立てゝ、それ來るぞ、それ取附かれるぞと云ふやうなことを說いて、びく〳〵させらるれば、それだけでも傳染病に罹り易い素地を作るのである。要するに普通人の衛生は消極的衛生ではならぬ、積極的に健康の上にも健康を增すやうに工夫しなければならぬ。病氣に對しては、守るだけの豫防法を守つて居れば、餘計な心配は無用である。時節柄臆病風に罹つて、身心を弱らさぬやうに、衛生講話、衛生雜誌の聞きやう、讀みやうの注意迄に一言此の如し。



質疑

問● 前略當年六十二歲の老人、至極壯健なるも、每年只今頃より濕氣拂と申し每日晝飯と夕食の後に五勺入程のコップに一杯づゝ燒酎に砂糖を混せて用ゆる習慣に候が、これは差支なきものに候や、實際何人にも多少效あるものに候や何卒六月御發行の婦人衛生雜誌の餘白に御示し被下候はゞ幸甚

（山、の）

答● 濕氣拂にアルコール性飲料は、頗る適當と存じます。但し老人や小兒には害があります。特に燒酎は宜しくない。尤も茶やコーヒー、ココアなどに少々滴して用ゆる位は差支ありません。從來の習慣で是非飲まねば氣分が惡いと云ふならば、老人は燒酎やブランデーなどの代りに上等の淸酒又

は衛衛酒などを用ひられるやうに致し度いものです。殊に近頃は燒酎類にはメチールアルコールなどが混して居つて危險があると云ふことであります。

問● 十四歳の女子トラホームにて手術を受け、殆ど治癒したるも未だ時々眼脂出て眼赤くなり、硼酸水にて洗ひ居れるが、初め手術を受けたる時の眼科醫は冷たき藥液にて洗ふやうに云ひ、他の醫師は温き硼酸水にて洗ふを宜しと云ふ何れが正しきものにや。（贊成員　大、惣）

答● 單にトラホーム後の結膜炎だけならば、冷温何れにても差支なし、元來角膜の病には温罨法、結膜の病には冷罨法と云ふが從來普通の療法上の原則であるが、近來は結膜疾患に對しても冷水にて暫時冷せば、反て反對に充血して來ると云ふ所より、特別の場合の外は一般に微温の洗眼水を用ゆる傾向である。

問● 前略昨年三月御發行の御誌第二百五十六號の美容法と申所のうち口臭を除くに最も良いのは三プロセントのペルヒドロール水と申事有之候間藥店に參り尋ね候處これなしと申候間誠に恐入候へ共處方御知らせ願上候。（增、や）

答● ペルヒドロール水と云ふて無ければ過酸化水素水と云ふて尋ねて御覽なさい、近頃は少し大きな藥屋には有る筈です、處方は齒科醫なり、普通の醫師なりについて御貰ひなさい。

雜報



○特殊兒童教育

文部省普通學務局の最近の調査に依れば、小學校現在兒童中、低能兒卽ち馬鹿と云ふ程ではないが、大分普通よりも足りない子供が十三萬九百人、白痴卽ち阿呆などと云はるゝ分際のものが、四千七百七

十一人、癲癇持の子供が二千三百四十六人、其の他の片輪者が二萬七百二十五人、これが合計十五萬八千七百四十二名の變物がある、これが即ち教育上特殊兒童として普通の兒童より區別せらるべきものであるが、特別に此等の兒童を教育し保護して居る學校は、全國を通じて僅に二十校程あるだけで、他は皆普通の健康兒童と一緒にして授業をして居る有樣で、これは教育上から云ふても、衛生上から云ふても、不都合この上もないことであるに由て、文部省も漸くこれが始末をつけやうと云ふ考になつて居る。是非そうなければならぬ筈である。

○按摩鍼灸術學校の指定

昨年の内務省令に據て近頃地方長官より指定されたる官私立按摩鍼灸術の學校は左の如し。

官立東京盲學校（東京）
私立盲人技術學校（東京）
大阪市立盲啞學校（大阪）
京都市立盲啞院鍼按科（京都）
私立茨城盲啞學校鍼按科（茨城）
岐阜訓盲院マッサージ科鍼科（岐阜）

○畜犬取締

畜犬取締の規則は近年度々變更されたるが、東京府下に於ける狂犬、狂犬ならざるも人を咬む癖のある犬は、大抵畜犬である、近頃は又々犬の猛る季節になつたので警視廳第三部にては、所管各警察に左の如く取締方を達したる由なれば、畜犬家もその注意あるべきなり。

一、左記ノ一ニ該當スル犬ハ明治四十四年廳令第二十號第一項又ハ第二項ニ依リ繫留其ノ他ノ施設ヲ爲サシムルコト
（イ）原因ノ如何ヲ問ハズ人畜ヲ咬傷シタル犬
（ロ）狂犬病ノ疑アル犬
（ハ）人畜ヲ咬傷スルノ癖アル犬
二、繫留其ノ他ノ施設ヲ爲シタルトキハ飼養者ノ住所、職業、氏名其ノ轉歸ノ際ハ飼養者ノ氏名及轉歸ノ事由ヲ其ノ都度第三部ヘ通報スルコト

三、繋留其ノ他ノ施設ヲ爲シタルトキハ依然實行シ居ルヤ否ニ關シ所轄警察官吏ハ隔月一回以上視察スルコト

四、第三部ノ獸醫タル警察醫及獸疫檢疫委員ハ時時所轄警察官吏ト同行シ前項ノ場所ニ臨ミ犬ヲ檢診スルコト

五、第一項(ロ)(ハ)ノ場合ニ於テ繋留其ノ他ノ施設ヲ要スルモノト思料スルモ尙疑ヲ存スル場合ニハ速ニ第三部ヘ通報シ獸醫ノ檢診ヲ求ムルコト

六、狂犬ノ疑又ハ人畜ヲ咬傷スルノ虞ナキ犬ト雖他ヨリ咬傷セラルヽトキハ自然病的傳播ノ虞アルヲ以テ此際成ルヘク他犬ト接觸セシメザル方法ヲ設クル樣飼養者ニ注意ヲ與ヘ時々其ノ實況ヲ視察スルコト

七、繋留其ノ他ノ施設ヲ廢セントスルトキハ獸醫ノ檢診ヲ經タル後ニ非ザレハ之ヲ爲サシメザルコト

八、畜犬ニシテ屆出ヲ爲サズ又ハ規定ノ頸環ヲ附著セザルモノアリ之ヲ捕獲シタル場合畜犬ナリト陳申スルモノヽ如キハ相當處置シ爾後嚴重ニ視察スルコト

○女中の爲の講話

去る十二日午後二時より女子高等師範學校の大講堂に於て、女中召使の爲の講話會が開かれた。定刻には滿員の姿であつた、御近所同志の一群をなして來れるもあり、奧樣の御供で實は奧樣に案內されて來たれるもあり、命令に依つて一人で遠慮らしく來れるもありしが、同校の通用門には十數名の本科生が居て案內する、入口にも生徒が居つて下足番をしてやる。頗る鄭重の御取扱いであつた。やがて篠田敎授が『何方もお忙しい所をよくお出下さいまして』との挨拶あつて、眞白の料理服姿で壇場に現はれたるは宮川壽美子女史『臺所の片づけ方』と云ふので、卓子の上には膳椀茶碗、コツプに鍋釜、飯櫃に至るまで臺所道具一式が竝んで居る『やさしい樣で六ケ

敷い順序が宜ければ早く片づく』と云ふ譯で、汚れた物が順序よく分類されて片端からさつさと片づけられる。『水一杯使ふにも、徒には使はぬ』と云ふ流義で、物の洗ひ方、石鹸と磨粉を用ひての飯櫃の磨き方、鹽と酢を混せて金盥の早磨きより臺所から湯殿の隅まで、水道栓もバケツも美事奇麗に光らしながらの説明で、何れも感じ入つた體であつた。次には平田敏雄氏の『瓦斯のお話』で水素瓦斯、炭酸瓦斯、酸素瓦斯などの性質を實驗で見せられて、又以て大に感嘆したが、前後に插んだピアノとバイオリン。琴、三味線に尺八の合奏も餘程の慰になつて、第一回の講話會は大成功を以て午後四時に閉會を告げた。

○竹の實

竹米の生るのは凶年の兆であると云ふが、本年は近年稀なる竹の實の豐作であると云ふことである。果して凶年の兆か何うかは知らぬが、明治三十五年及び三十六年には、北海道にて竹の實が非常に澤山成つたので、室蘭支廳や宗谷支廳では、これが採集を奬勵したことがあつた、その時分北海道農事試驗場で分析した竹の實の成分は左の如きものであつた。

（室蘭支廳の分竹實百分中）

水分	三三・〇七六	灰分	二・〇一一
蛋白質	七・七七三	纖維	四・九二六
無窒素	五〇・九九一	脂油	一・二二三

（宗谷支廳の分竹實百分中）

水分	一三・四〇五	灰分	二・二八一
蛋白質	一〇・八〇三	纖維	六・〇七六
無窒素	六六・二七六	脂油	一・一五九

斯の如き成分なるを以て、米の代用に出來ぬ迄も、慥かに喰ふに足るものである。但しこれにも有毒の麥角がつくことあるを以て、收穫の際には十分注意しなければならぬと云ふことである。

○米國兒童の蠅取懸賞

善いか惡いか分からぬが、兎に角米國では、少年少女をそれ相應に面白く働かして、直接間接に世の中

の爲になることをさせる。昨年の夏は懸賞で以て兒童に蠅取をやらして、衛生上少なからぬ好成績を收めたと云ふことである。過日の東京朝日新聞に左の如き記事があつた、面白いからこゝに一部を轉載する。

昨年の夏の或日大なる自働車が華盛頓市の衛生局門前へ横附にされた、ヒラリと飛出したのは可愛の少女、衣摺の音輕くドクトル、モルレーの前に臆する色もなく差出したのは死蠅で充した一個の箱、出合がしらに之は又穢な氣な身裝の一少年が同じ様な箱を提げて來た、斯うして少年少女の赴く所は凡て忌まはしい蠅が取盡された、之を最初に始めた土地はテキサス州のサン、アントニオで六月十四日に始めて七月三日迄行つた、死蠅の數百二十五萬、之を積んだ時には累々として方五尺、高さ三尺の金字塔が出來上つた、統計表によれば其爲百萬億の黴菌が勢力を失つたとのことである、尤も之には同地のデーリー、エッキスプレス新聞社が總指揮官となつて成績優等なる者に十弗五弗、一弗宛の賞金を提供した。同時にマサチユーセッツ州ウォースター市クラーク大學教授ホウジ博士も亦蠅驅除軍の編成を社會に訴へてウォースター、テレグラム新聞は直に一等百弗、二等七十五弗、三等五十弗から二弗迄百五十三種、總額六百五十弗の懸賞を發表した、そして少年少女等の對蠅戰爭は六月二十二日の午後六時に始まつて七月十五日午後八時に結了した、捕捉器はホフジ氏自身も工夫しがた、一等賞を得た十二歳の少年は自ら工夫を凝して此器を作り罠に入つた群蠅は硫黄の煙を以て一時に殲滅する裝置で此少年一人で取つた蠅は實に百二十一萬九千疋であつたといふ、華盛頓市も此二市に倣つて此法を行ひ同地の有力な新聞スターは總額百弗の懸賞金を提供して此擧を勵まし又市の衛生課では捕捉器を作つて家々に供給した程であつた、斯して以上の三市は衛生法と病毒蔓延豫防法とを行つて有史以來の好果

を收め昨夏は殆ど各種の傳染病患者を市内に出さなつたとのことである。

○改良身體檢査備考

多年校醫の職に在る齋木林策氏は、學校醫が生徒の身體檢査に際し、實地上必要なる檢査標準を示さんが爲に、規定の各項目につき、その要領を說明し、終に參考として學校傳染病規程の拔萃を附し、これを一枚の紙に印刷し、裏面には男女生徒の身長、體重、胸圍の平均を載せ、四折にしてポッケット入となせり、學校醫用たるのみならず、家庭に於て我兒の體育を顧みるに好參考たらむ、定價金拾二錢、拾部以上半減

○三越オモチャ會

三越吳服店にては此度新にオモチャ會を設立したり、その趣意書及び會規は左の如し。

善いオモチャが善い家庭を作る事は申すまでもございません。わが三越吳服店は、こゝにその善いオモチャを十二ヶ月の季節にあてはめて作り出し、之を各御家庭に分つといふ事を思立ちました。どなたでも會規によつて御入會になれば、いろいろな珍らしい、面白い、新らしい、美しいオモチャが每月いくつか、一年には幾十種か手に入るのです。オモチャの種類は、極新らしい考案に成つたものもあります、古くはやつて一時廢れて居たものもあります。各地方のものもあります、又外國のものを日本風に改良したものもあります。要するに世間普通にありふれたるものでなく、しかも皆、兒童用品研究會の先生方の選擇を經たものばかりでございます。

お子樣のある家庭は勿論、御宅樣に御子樣が無くとも、御親戚に可愛ゆい御子樣でもあれば、每月その方の爲めに贈つておあげになるなど、種々の方面から見て。おもしろい事でございませう。目下開會中の、第四回兒童博覽會の參考室には、その見本の一部ともいひ得る『兒童年中行事』といふのが陳列してございまして、目下非常の好評でございますが、今それを記念として、玆に第一回會友を募集致します。御贊成御入會を希望致します。

會規

一、入會者を會友と呼ぶことに致します。

一、會費は一口につき毎月金壹圓、十二ヶ月を以て一期と致します。

一、會費は毎月オモチャと引換にお渡しを願ひます。御都合で一期若くは半期分宛前納されても差支いはございません。

但し逓送料は、市内は無料、市外は實費をいただきます。

一、會は會友に向つて、毎月月の始めに數種のオモチャをおくります。

一、一人で幾口御申込下さる事も出來ます。

一、オモチャの數は豫め定められません只成るべくよい物を成るべく多く差上げたいと思ひます

一、會友には會友證をさし上げます。

一、會は時々『會友會』を開き、兒童及び其父兄の爲めに利益ある講演會、趣味ある娯樂會を開催致します、會友證のある方は其時特別の待遇が受けられるのです。

○小兒の活動寫眞觀覽禁止　活動寫眞觀覽が、兒童の精神及び身體に害あることは、近頃諸方の議論八釜敷こととなるが、獨逸國ハンブルグにては、禁令を設けて、年齢十四歳以下の兒童の活動寫眞觀覽を嚴禁し、(特に兒童に觀覽せしむるための活動寫眞は此限にあらず、又夜七時以後に活動寫眞を觀覽することは假令大人の同伴ある場合にありてもこれを嚴禁することゝせり。

廣告

○婦人衞生會例會　本月一日午後一時半より神田區一ッ橋通り共立女子職業學校三階の大講堂に於て例會を開けり、當日は本會總裁東伏見宮妃周子殿下には、宮岡御用掛を從へさせられ御台臨あり、本會役員一同同校玄關に御馬車を迎へ參らせ、生徒製作品陳列所にて御休憩中役員一同に謁を賜ひ、副會長濟尾男爵夫人の御

先導にて會場に成らせられ、同校生徒の最敬禮中に御著座あり、蓄音器の元氣よき英國唱歌など一つ二つ響き、莊司氏の開會の挨拶に次で、當日の講師ドクトル富士川游君は殿下の御前に講演の次第を申上げ、直ちに登壇『疫病の話』と題し、稲目宿の昔より今日に至る迄二千五百有餘年間に於ける本邦の疫病に就て、その種類、性狀、當時の慘狀を敍し、これに關する諸種の迷信的豫防及び治療法等につき、これが心理的解釋を下し、種々の繪草紙を覽に供し、表を掲げて大體疫病とは何か、昔の人は如何に考へしや、今日の醫學にては如何に說明するかを述べ、各種の傳染病、流行病も各々其の病原物も分かり、傳染の道筋も明かなる今日にありては、妄に恐るゝに及ばず、大體の病原物は、飮食物と共に口より入るものなれば、これを注意し、各傳染病の潛伏期を心得居りて、病人に接せるものゝ隔離法を實行し、發病の徵あれば直ちに治療を受くることゝすれば、さのみ恐るゝに足らざることを說き、大に、聽衆の意を强うせられたり。次に醫學士千葉眞一氏は『歌聲に就て』と云ふ題にて、發聲器官の解剖生理より、西洋と我邦とに於ける各種聲樂の差異、敎授練習法の相異、歌聲に關する養生法等につき趣味あり且有益なる講話をせられたるが、總裁宮妃殿下には、終始御熱心に御聽聞あらせられ、午後四時閉會、直ちに御歸邸あらせらる、右講演の要領は漸次本誌講演欄に掲載すべし。

○山形支會總會

同支會は去月十六日上ノ山溫泉場米屋旅館に於て第十三回總會を開催せり。當日の出席者は支會長馬淵夫人を始め役員全部、會員五十餘名にて、幹事より庶務會計の報告あり、式後役員改選の披露をなし、懇親午餐會に移り、餘興として三川令孃の仕舞等あり、一日歡を盡して散會せり。

當日寄附

金貳圓　　支會長　馬淵よし子

役員改選の結果は左の如し。

支會長　馬淵よし子
副會長　新關たん子
幹　事　大味さだ子　同　岸本鐵子
同　西山玉子　同　佐藤たみ子
同　坂口よし子　同　林ちせ子
同　飽田小濱子　同　戸田たき子
同　西野貞子
評議員　長谷川ゆう子　同　長谷川こと子
同　三川こう子　同　三浦ます子
同　關根たか子　同　山岸きみ子
同　村井せい子　同　橋爪ます子
同　柴垣たつ子　同　西野きぬ子

○新潟支會地久節祝賀式

新潟支會に於ては五月二十八日午後一時より同市師範學校附屬小學校に於て婦人教育會と聯合の上地久節祝賀式を擧行せり、高田せん子姉の開會の辭に次ぎ江口師範學校長の祝辭、高橋辰五郎氏の祝辭ありて式を終り、餘興に浪花節、遊戯等ありたり、出席約百二十餘名頗る盛會なりしと。

○本會入會者

○事務所申込

●神田區美土代町二ノ一　特別會員　島壽子
●京橋區靈岸島濱町一　特別會員　秋原せん子
●牛込區仲ノ町五　特別會員　小池てる子
●麹町區有樂町一ノ二官舍　特別會員　小濱るい子
●芝區新堀町三六　特別會員　長原なか子
●京橋區山下町七　特別會員　宇津木廣子
●牛込區加賀町二ノ三　通常會員　伴野操子
●芝區二本榎西町三　通常會員　半田後子
●麻布區飯倉町四ノ二二　通常會員　白石菊子
●深川區萬年町二ノ一四　通常會員　服部よう子
●府下八王子大横町二四　通常會員　杢代よし子
●府下青梅町郡役所內　通常會員　安藤こみ子
●本郷區動坂町九九　通常會員　山岸ふみ子
●芝區高輪南町四七　通常會員　渡邊竹子
●府下品川御殿山　通常會員　原こみ子
●麹町區三番町四　通常會員　鈴木英子
●府下千住町五ノ七二九　通常會員　名倉あい子

○池田かつ子紹介
●北海道留萌御料地幌糖駐在所　通常會員　小林千代子

○阿部恒子紹介
●札幌區北四、西一二ノ二　通常會員　持田温子

○高田直子紹介
●山口縣佐波郡右田村　通常會員　河村まちよ子
●福岡縣遠賀郡戸畑町　通常會員　德本ゆきえ子

○鳩山春子紹介
●神田區猿樂町三ノ一　通常會員　宮尾綠子

○伊藤弘一紹介
●本郷區千駄木町一七七　通常會員　井上房子

○阿部久吉紹介
●日本橋區本町三里村藥店内　通常會員　里村けい子

○山形支會入會者
●特別會員　濱村きう子
●通常會員　關ます子
●通常會員　齋藤こう子
●通常會員　角田せい子
●通常會員　斯波ゆき子
●通常會員　松田きう子

○新潟支會入會者
●特別會員　長谷部甲子
●通常會員　大坪眞喜子
●通常會員　藤田八重子
●通常會員　布施菊子

○澤田いつ子紹介

○轉居
●芝區公園九號地六へ　伊東こう子
●名古屋市中區南瓦町十八へ　杉山馨子
●岡山市西川町一一四へ　新保小春子
●相州三浦郡浦郷字竹ヶ作一九七七へ　杉本清美子
●吳市濱田町五番次四十一へ　佐藤貞子
●芝區二本榎町二ノ二五へ　白石まん子
●赤坂區高樹町十四へ　松下貞子
●府下下澁谷一八三六へ　杉本千世子
●芝區櫻田本郷町十四へ　今井りう子
●小石川區丸山町十八へ　松井正子
●麹町區飯田町六ノ十七へ　石井たま子
●大阪市西區薩摩堀東町三八へ　植田しげ子
●麻布區本村町一四四へ　松原とよ子

○訂正
通常會員　鶴岡きみ子ヲ　特別會員　鶴岡きよ子

東京醫科大學小兒科主任教授 醫學博士 弘田長閲
大阪高等醫學校長兼同病院長 醫學博士 佐多愛彦序
元大阪高等醫學校病院小兒科醫長心得 長濱宗佶著

改訂七版

小兒養育の心得

全一冊

製本美麗

正價金壹圓八拾錢

小包郵便料 金拾貳錢

本書は久敷缺本の處今般更に増補改訂して大に其面目を改善せり

本書は著者が多年の研究と經驗に基き現今の學理を應用し我國の風俗人情に鑑みて小兒の營養法保護法看護法其他小兒の發育教養に關し日常養育者の心得べき事項は細大漏さず一々懇篤なる說明を加へ尚小兒の發育並に健康狀態皮膚の强壯法急病時の取扱法學校病等を通俗的に詳しく記述したる者なれば育兒上**父母**の座右に缺くべからざる良書なるのみならず**醫師看護婦産婆保姆教員**等凡て直接間接に小兒と關係を有する者の必讀すべき參考書なり

賣捌所

東京市日本橋區通三丁目 丸善株式會社
大阪市東區博勞町四丁目 丸善株式會社大阪支店
京都市三條通麩屋町西入 丸善株式會社京都支店

婦人衛生雜誌代價及廣告料

代價

一冊	定價金貳拾錢	郵税壹錢
三冊（三ヶ月分）	前金郵税共	金四拾五錢
十二冊（一ヶ年分）	前金郵税共	金壹圓八拾錢

廣告料

一頁六十二行 一行二十三字
壹頁 金五圓 半頁 金貳圓五拾錢
○特別廣告 壹頁金拾圓 半頁金五圓
○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行貳拾五錢

規定

○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ヶ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ講讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

明治四十五年六月十七日印刷
明治四十五年六月二十日發行

編輯者兼發行者 東京市本郷區駒込追分町二十九番地 莊司秋次郎

印刷者 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 今井甚太郎

印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 杏林舍

發行所 東京市麴町區富士見町二丁目三十二番地 私立大日本婦人衛生會事務所

賣捌所
東京市本郷區龍岡町 吐鳳堂
同市銀座四丁目 東海堂
同市京橋區鍋屋町 巨明堂
同市本郷區本富士町 明文館
同市同區春木町 南江堂支店
京都市寺町二條南入 若林茂一郎
東京市日本橋區吳服町 北隆館
同市神田區表神保町 東京堂
同市本郷區本富士町 盛春堂
名古屋市本町三丁目 丸善書店

七月の巻發行 定價

壹冊貳拾八錢郵税貳錢五厘
六冊前金郵税共壹圓七拾錢

新婦人

夏季特別號

涼氣雙袂に充ち清風惰眠を醒す

夏の化粧法 上山浦路
涼しき化粧 遠藤初子
涼しい束髪 伊賀とら
鐵道乗客待遇新施設 木下淑夫

●伊豆大島（幸田博士）婦人旅行の可否（嘉悦孝子）夏の魚族（岸上博士）才色兼備の瀬戸内海（巖谷小波）長良川の鵜飼（佐々木代議士）茶飲茶碗の水（幣原博士夫人）山紫水明境（尾崎市長夫人）婦人の水上極樂（石井研堂）湯行脚（長谷川時雨）婦人の富士登山（小島烏水）遊の地獄谷（尾島菊子）寄居の娘子軍（藤間房子）眞夏に榮種の花（泉斜汀）芦の湖畔（北村東紅）鎌倉山（水井優子）冷熱夏の女（兒玉花外）たもと硯（本多嘯月）◎◎◎

鐵道沿線名勝案内
附錄電報頼信紙添

武藏鐙 河村清雄筆 油繪極彩色 水天髣髴 伊藤靜雨筆 石版極彩色 展望車上の阿嬌 コロタイプ寫眞其他本誌獨特の濃艶にして清楚なる口繪は名家の淑女名流婦人如雲

卷末附錄 家庭日誌 七月分 溫度表 晴雨表 獻立表 來客控 ●九星舊曆添

新婦人見本 郵劵一冊 錢

賣捌所は全國著名の書林雜誌店

發行所 東京市本郷區龍岡町 振替東京三〇五八番 聚精堂 電話下谷一六七二番 電話下谷四〇七九番

婦人衛生雜誌第二百七十一號（明治四十五年）明治四十三年十二月一日（毎月一回）